

令和元年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学理工学部

評価委員会

令和2年12月

目次

令和元年度教員個人評価について	1
1. 教員個人評価の実施状況	3
1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など	3
1.2. 教員個人評価の実施概要	3
1.2.1. 評価組織	3
1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等	3
1.2.3. 添付資料	5
2. 理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となつて行った教育研究活動等	6
3. 評価領域別の集計及び分析	8
3.1. 教育の領域	8
3.1.1. 講義担当等に関する事項	8
3.1.2. 教育改善に関する事項	10
3.1.3. 教育研修・FDに関する事項	17
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項	19
3.1.5. 学生の受賞等	20
3.2. 研究の領域	24
3.2.1. 著書, 論文等の発表実績	24
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績	26
3.2.3. 受賞等の実績	29
3.3. 国際・社会貢献の領域	30
3.3.1. 国際交流実績	30
3.3.2. 社会貢献実績	34
3.4. 組織運営の領域	39
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価	42
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度	42
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム	44
4.3. 評価委員からのコメント	51
令和元年度理工学部評価委員会委員	56

令和元年度教員個人評価について

理工学部における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書に基づき、理工学部評価委員会の下に置かれた理工学部個人評価実施委員会において行うこととされ、本報告書はその令和元年度分を取りまとめたものです。

教員自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の4つの観点から、各教員が5段階で評価を行います。次に、個人評価実施委員会が、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び理工学部と理工学研究科・工学系研究科の目標達成に向けた活動という観点から個人評価点の妥当性を点検します。

各部門の詳細は本編に記載されていますので、ここでは理工学部について整理します。

個人評価の実施状況については、全ての教員が回答していることにより、各教員が4つの観点を意識して積極的に日々の業務を実施していることが伺えます。評価の4つの観点全てに対して大きな成果を上げることが期待されますが、特に教育と研究は大学の使命であり、高いレベルが要望されています。

教育活動では、組織的には本年度に理工学部と工学系研究は博士前期課程の改組を行い、より社会の要望に応えるカリキュラムに変更するとともに、環境・エネルギー科学グローバルプログラム(PPGA)および大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)など、グローバル化を見据えた教育プログラムを提供しています。また、各教員の授業担当については、改組と人員削減の影響により教員あたりの担当科目数・担当コマ数とも増加し負担が大きくなっている中でも、アクティブラーニングや反転授業を取り入れたりeラーニングを活用するなど、各教員が創意工夫を行って授業を提供しています。さらに、きめ細かな研究指導が行われており、これが60件を超える学生受賞に結びついたものと思います。

研究においては、厳しい状況の中にあっても高いアクティビティを維持し、多くの学術論文掲載、約70件の共同研究、19件の受賞という良好な成果を上げています。

国際交流では、組織的には国際パートナーシップ教育プログラムを実施していますが、本年度はコロナ禍の影響により年度末に計画していたものが実施できなかったことは非常に残念です。また、各部門では約100件の研究者や学生の派遣・受入などが行われており、活発な国際交流が実施されています。

社会貢献では、高大連携による地域教育への参画、各種自治体の審議会・委員会構成員としての地域貢献、学会役員としての学会活性化への取組みなど、150件を超える取組みにより佐賀県を中心として広く社会に貢献しています。

組織運営は、全教員が日々の業務に真摯に取り組むとともに、多くの教員が学長補佐や他部局・センターの運営委員・併任教員を務めることにより学部のみならず全学の運営にも大きく貢献しています。

理工学部では、全てのステークホルダーの皆様から頼りにされる存在になるということを大義としています。本報告書に示されていますように、この大義の実現に向けて各教員はそ

それぞれの自由闊達な発想により PDCA サイクルを回し、改善を続けています。そして、今後もそれぞれの幸せと佐賀大学の発展に向けて高いアクティビティで活躍してほしいと願っています。これからも教員一丸となって取り組みますので、皆様のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

理工学部長
豊田 一彦

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など

理工学部所属の教員（教授，准教授，講師，助教）に対して，別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し，下記表の全員から回答を得た（回答率100%）。（令和2年10月1日現在）

部 門	回答教員数	回答率(%)
数理	8	100
情報	16	100
化学	22	100
物理学	12	100
機械工学	25	100
電気電子工学	24	100
都市工学	21	100
理工学部（合計）	129	100

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織

理工学部評価委員会ならびに理工学部個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等

- ① 2020年2月27日
 - 学部長は，退職（予定）教員に対し，令和元年度活動の自己点検・評価を行い，別紙様式1，3，4を令和2年3月31日までに提出するように依頼した。
- ② 2020年3月11日
 - 学部長は，全教員に対し，教員活動データベース及びポートフォリオシステムについて，それぞれ，2020年3月31日および2020年3月27日までに入力するように依頼した。
- ③ 2020年3月12日
 - 学部長は，全教員に対し，令和元年度活動の自己点検・評価を行い，別紙様式1，3，4を2020年4月30日までに提出するように依頼した。
同時に，2020年度の各様式もメールにて送付し，別紙様式1（2020年度活動の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。
- ④ 2020年4月7日
 - 教員活動データベースシステム全学管理責任者から，全教員に対し，教員活動データベースへの入力について依頼があった。

- ⑤ 2020年5月13日 第1回理工学部評価委員会開催
- 2019年度教員個人評価のスケジュールを決定した。
 - 2019年度教員個人評価集計と分析報告書(様式)について決定した。
 - 理工学部個人評価用集計シート及び理工学部・工学系研究科個人業績集約方法の様式を決定した。
 - 2020年度理工学部自己点検・評価スケジュールを決定した。
- ⑥ 2020年5月15日
- 副学部長(評価担当)は、個人評価実施委員(各部門長)に、各教員から提出された2019年度の各別紙様式(1・3・4)、「個人評価用集計シート」、「個人評価用集計ツール」、「個人業績集約の方法」、「2019年度教員個人評価(部門)集計と分析報告書」の様式を送付し、「2019年度教員個人評価集計と分析(部門)」の作成を依頼した。(USBメモリーを手渡した。)
- ⑦ 2020年5月15日
- 学部長は、個人評価実施委員に、2019年度活動の「個人目標申告書」(別紙様式1)、教員活動データベース、ポートフォリオ学習支援統合システム評価基礎情報、及び「個人評価結果」(別紙様式3)に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、2019年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4)への記載を依頼した。
- ⑧ 2020年6月30日
- 個人評価実施委員は、2019年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4、別紙様式1・3も含む)および「2019年度教員個人評価集計と分析(部門)」を学部長へ報告した。
- ⑨ 2020年7月3日～7月30日
- 学部長は、2019年度活動の「個人目標申告書」(別紙様式1)、教員活動データベース、ポートフォリオ学習支援統合システム評価基礎情報、及び「個人評価結果」(別紙様式3)に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、個人評価実施委員が記載した2019年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4)の評価内容を確認し、必要があれば評価結果の補足等及び学部長コメントを記載した。なお、学部長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求めた。また、学部長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取した。
- ⑩ 2020年8月5日
- 学部長は、2019年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4)および「2019年度教員個人評価集計と分析(部門)」を、当該教員に通知した。
 - 各教員は個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後2週間以内に異議申立書(様式任意)を学部長に提出することとなった。

- ⑪ 2020年8月5日
 - 副学部長（評価担当）は、理工学部の令和元年度教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。
- ⑫ 2020年11月26日
 - 学部長は、理工学部の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、理工学部評価委員会に対し、本学部の教員個人評価結果の総合的な検討を付託した。
- ⑬ 2020年12月1日
 - 評価委員会は、本学部の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を学部長に報告した。
- ⑭ 2020年12月下旬
 - 学部長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて理工学部教員の個人評価結果を学長に報告した。

1.2.3. 添付資料

佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成17年3月1日制定）

佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準

「理工学部における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式1）

教員報告書（別紙様式2）：理工学部教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え
自己点検・評価書（別紙様式3）

個人評価結果（別紙様式4）

2. 理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となって行った教育研究活動等

理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となって行った教育研究活動等を以下に示す。

- 理工学部国際パートナーシップ教育プログラム（平成16年度より）：2019年度は9件実施，パートナー機関は，台湾国立勤益科技大学（台湾），武漢大学（中国），蘇州大学（中国），同済大学（中国），遼寧大学（中国），大邱大学（大韓民国），延世大学（大韓民国），ランブンマンクラット大学（インドネシア），ハサヌディン大学（インドネシア），西ヤンゴン工科大学（ミャンマー），カントー大学（ベトナム），ベトナム国家大学ホーチミン市校情報技術大学（ベトナム）
 - ・ 情報部門，化学部門，物理学部門，機械工学部門，電気電子工学部門，都市工学部門の教員が参画
- 環境・エネルギー科学グローバルプログラム（PPGA）（2013年10月より）
 - ・ 外国人留学生と日本人学生が共学し，世界的な環境とエネルギー問題の解決に関する講義などの教育カリキュラムを全て英語で実施するプログラムである。
 - ・ 前期課程プログラムは，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が，また博士後期課程プログラムは，システム創成科学専攻の化学，機械，電気電子，都市，先端融合分野の教員が参画。
- 大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)
 - ・ 佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程の教育プログラムで，学術交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し，佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために，佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け，アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである。工学系研究科博士後期課程担当の教員が参画。
- 学生の留年率，就職率，進学率の改善に対する取組み
- 佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成13年度より）
 - ・ 佐賀大学の交流協定校に所属する学生を対象とした短期留学プログラムで，日本語コース（SPACE-J：学部生および修士課程の院生が対象）と，英語コース（SPACE-E：学部生のみが対象）がある。佐賀大学での学習や研究，また日本人学生や地域の人々とのふれあいを通じて，日本社会についての知識や理解を深める。学生の受け入れや講義，自由研究を担当。
- 高等学校とのジョイントセミナーで各部門の教員が高等学校を訪問し，ミニ講義，模擬講義，大学・学部・学科の紹介を実施。佐賀県立致遠館高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業において研究者招聘講座および理系ガイダンス講座等を連携して実施
- 環境美化エコ活動

- ・ 光熱水量使用料金の抑制：平成 18 年度から使用量に応じて負担する受益者負担制度を導入，夏季および冬季の空調交互運転，エアコン，照明器具の更新に当たっては省エネタイプに切り替え，夏季および冬季の節電パトロールを実施
- ・ オープンキャンパス実施前(令和元年 8 月 7 日)のキャンパスクリーンデーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部，修士），担当コマ数（半期当り換算），卒業研究指導学生数，修士特別研究指導学生数，博士研究指導学生数（主指導）の平均値を示している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当，指導学生数

部 門	職 位	学 部 (教養教育科目を含む)			大 学 院			
		担当科 目数/ 教員	担当コ マ数	卒研学 生指導 数	担当科 目数/ 教員	担当コ マ数	修士学 生指導 数	博士学 生指導 数
数理	教 授	6.00	6.00	3.33	2.67	1.43	1.00	0.00
	准教授 (含講師)	6.20	5.80	3.60	2.60	2.40	2.00	0.20
情報	教 授	7.00	5.65	3.57	2.71	2.23	2.29	0.43
	准教授 (含講師)	5.33	5.18	3.83	2.17	1.68	3.17	0.50
	助 教	1.67	7.83	1.33	0.00	0.00	0.00	0.00
化学	教 授	10.42	10.47	3.92	8.42	5.77	4.67	0.58
	准教授	7.43	9.11	3.71	4.29	3.83	3.29	0.00
	助 教	5.33	6.57	3.00	0.00	0.00	0.00	0.00
物理学	教 授	6.40	7.12	3.60	2.20	3.10	2.20	0.20
	准教授	4.86	5.48	2.57	2.14	1.80	1.86	0.00
機械工学	教 授	4.33	3.92	4.00	2.56	2.06	2.33	1.00
	准教授 (含講師)	5.54	5.45	3.00	2.54	2.08	2.69	0.08
	助 教	2.00	3.40	1.00	0.33	0.02	0.00	0.00
電気電子工学	教 授	3.33	3.51	4.78	5.22	3.77	5.67	0.78
	准教授 (含講師)	5.50	6.79	3.33	4.33	3.32	2.67	0.08
	助 教	2.67	3.83	1.33	0.33	0.02	1.33	0.00
都市工学	教 授	7.33	7.20	4.78	4.22	2.93	2.56	1.78
	准教授 (含講師)	5.36	5.22	4.82	2.91	2.05	2.09	0.27
	助 教	4.00	6.00	7.00	0.00	0.00	0.00	0.00

受講生数は教務システムに登録された履修者数

授業担当コマ数は，半期当りに換算する。（通年 1 コマの科目は 2 コマとする。） 1 科目を複数教員で担当する場合は，実働時間とする。

【数理部門】

- 教授と准教授は概ね同数の科目を担当している。卒業研究や修士課程の主任指導に関しては、准教授の方が教授よりもやや多くの学生を担当しているが、これには学生の選択・希望が反映しているものと考えられる。
- 博士後期課程の主任指導の有資格者として博士課程学生を指導している准教授もいる。

【情報部門】

- 教授は准教授よりも多くの科目を担当している。また、博士後期課程の主任指導の有資格者として博士学生を指導している。准教授の中にも、博士後期課程の主任指導の有資格者として指導を行っている教員がいる。
- 助教は演習や実験の指導を担当している。
- 懸念事項となっていた職種間の教育負担の隔たりに改善が見られる。大学院における修士および博士学生主任指導における教授と准教授の差はなくなっており、学部・大学院ともに、担当科目・コマ数の差も縮まっており、教育負担の均等化が進んでいる。

【化学部門】

- 教授、准教授ともに、学士課程と博士前期課程をあわせて年間 18 科目以上、コマ数でも同程度を担当している。昨年度と比較しても、担当科目数とコマ数がともに著しく増加しており、教員の教育負担が過度に増加していることが解る。教授・准教授は、学生実験科目も担当しているので授業のエフォートは大きい。助教は、教授や准教授に比べると授業科目の担当数が少ないが、主に実験及び演習科目の指導を担当するとともに、主要授業科目以外の科目を担当している。また、学部長の教授の講義負担を全体で支援した。
- 博士前期課程の研究指導に関しては、准教授の方が教授よりも多くの学生を指導している。ただし、その差は少なく年度によっても異なるので、同数程度の学生を指導していると思なすことが妥当であろう。助教は、4 年次卒業研究着手時の配属学生数が教授や准教授よりも少ないので、学士課程の指導学生数は少ない。さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習や生活相談など）を行っていることが報告されている。博士後期課程に関しては、主任指導の有資格者の多くは教授であるので、教授が主に博士後期課程学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員もいる。

【物理学部門】

- 平均して教授は准教授よりやや多めの授業を担当し、研究指導学生数は同等である。
- 博士後期課程の主任指導の有資格者として博士学生を指導している教員がいる。
- 役職者については、負担の軽減をはかる措置を講じているが、実際はあまり軽減されていない。
- 新課程が始まった 1 年目で旧課程との過渡期あるため、理工学科共通専門基礎科目や理工学研究科の新規開講科目などの新しい科目の担当が増加し、全体的に教育負

担がましている。

【機械工学部門】

- 講義担当科目数について、学部科目は教授に比べて准教授が若干多く担当しているが、大学院科目は教授および准教授は同じ科目数、コマ数を担当している。卒業研究および大学院の指導学生数について、教授と准教授は概ね同数を担当している。准教授においては、博士後期課程の主旨導を行っている教員もいる。
- 助教は機械工学実験Ⅰ・Ⅱ、機械工作実習Ⅰ・Ⅱなど、実験・実習の指導を担当している。

【電気電子工学部門】

- 准教授は教授よりも学部に関しては多くの科目を担当している。これは、准教授が学生実験の科目と担当しているためである。また、准教授の中で、博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- 助教は主に実験指導と選択科目を担当している。指導する学生数は平均 1.33 人で前期後期を通じて 3.83 コマを担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の学生指導の支援を行っている。

【都市工学部門】

- 教授は、学部、大学院ともに准教授よりも多くの科目を担当している。また、教授と准教授はほぼ同数の卒研学生を、大学院では教授が修士および博士学生とともに准教授よりも多くの教育指導を担当している。さらに、准教授の中には副指導教員となって、博士学生の実質指導を行っている教員もいる。助教は主に実験や製作指導を担当している。
- 指導する学生数は卒業研究（講師以上）で平均 4.8 人、修士指導（講師以上）で平均 2.3 人、博士主任指導（全教授と有資格の准教授）で平均 1.7 人である。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っていることが報告されている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、理工学部各学科の教員は、次のような取り組み、実践を行っている。

【数理部門】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- 定期試験不合格者に対して再試験を行った。（教授）
- 関数のグラフを作成・出力した資料を配布した。（教授）
- 少なからぬ学生からの数学に関する質問および進路の質問を受け、相談に乗った。（准教授）
- 講義に関する多くの質問があり、それらに柔軟に対応した。また自身が学生時代に一般企業の就職活動をした経験を踏まえて、卒業研究生の就職活動に関して助言し

た。(准教授)

- 学生からの質問を授業毎に促すようにして学生が質問に来易い雰囲気作りに努めた。その結果、毎週2人か3人は研究室へ質問に来るようになり、質問に来た学生に対しては学生の理解度に応じた細かな指導が出来るようになった。(准教授)
- 授業の進行に応じて、適宜オンラインシラバスを書き直し、より正確な情報を提供した。(准教授)
- 授業の折に、保険会社関連のインターンシップへの参加を促し、実際に参加した学生には授業時間の一部を利用して他の学生向けに報告してもらった。(教授)

【情報部門】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- クラウド環境を利用し、学生が大学でも自宅でも同一の環境で演習が行えるよう工夫した。(教授)
- オンライン授業用の教材作成を行った。(教授、准教授)
- 開講した全ての講義に対して、講義資料をオンライン公開した。(教授、准教授)
- PC環境を使った実習を行い、実習を通して実体験することで、理解を深めさせた。(准教授)
- 予習・復習用の解説ビデオを作成し、毎週、予習課題をLiveCampusで通知した。(教授)
- 予習確認テストで学生の理解度を把握し、授業時間では、最小限の解説にとどめ、演習時間を多くとった。(教授)
- 授業を進める中で問題を出し学生に解かせることで、学生自身が考える時間を設けた。(准教授)
- 授業中に解いた問題の解答を発表させ、発表者に授業評価点を与えることで、積極的に取り組むように促した。(准教授)
- 毎回、小テストを実施し、講義内容の定着と復習を図った。(教授)
- e-Learningシステムを活用して毎週の授業後に小テストを実施した。(准教授)
- ラーニングポートフォリオシステム、自作の教務判定システムを活用して、学生の細かいケアを行った。(教授)
- 学習アドバイザーやTAと連携し、履修者のケアを行った。(教授)
- 毎週、全学生からの質問を収集し、それらの中の代表的な質問、おもしろい質問に回答することを行い、学生の理解度を高めた。(教授)
- ほぼすべてのレポート課題にアンケートをつけ、要望・意見についてコメントを返すとともに対応可能なものは講義に取り入れた。(准教授)
- e-Learningシステム活用して学生の意見や質問を収集し、次回の授業までに回答するとともに、得られた意見を活用して授業を改善した。(准教授)
- 授業時間外の課題などを整備し、学生の予習復習の利便性を高めた。(教授)

- ・ オフィスアワーの設定時間以外でも、学生からの質問などに積極的に応じた。（准教授・助教）

【化学部門】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- ・ 授業に対する学生の評価は非常に高く、授業内容を選別し削減したことが功を奏したようである（教授）
- ・ アクティブラーニングを取り入れ、授業当日の内容の問題を解かせた（助教）
- ・ 学んでいない数学の基礎を含めて、理解できるように授業を行った。（准教授）
- ・ 学生が主体的に学べるよう他者と一緒に「書く」、「話す」、「発表する」といった活動が行われていた（教授）
- ・ 演習を取り入れた講義を行い、学生の理解力の向上に努めた（教授、准教授）
- ・ 質問に来るような仕組み（課題の解答は質問にて答えるなど）によって質問に来る学生が増えた（准教授）
- ・ 講義資料を事前に公開し、講義資料を事前に受講生に公開し、資料を見ながら講義が受講できるように努めた（准教授）
- ・ 演習の際に学生同士で議論するように促し、教えあうことで理解を深めるようにした（准教授）
- ・ 毎回の講義の後半でミニ演習を取り入れることで、講義（もしくは前回の講義）内容がどの程度学生に修得されたのかを図り、理解が不十分と思われる箇所を補足説明した（教授）
- ・ 学部・大学院でおさえしてほしい学習内容について時間をかけて説明してきた。これまで、理解せずに済ませていた点、なるほどそうだったのかと思うような点を講義に盛り込むように努力した（准教授）
- ・ e-learning および LiveCampus を利用した課題提供を継続している。対象は再履修科目であり、多くの学生が継続的 e-learning を行なった結果、及第点に達した（教授）

【物理学部門】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- ・ LMS を活用している（教授）。eラーニングを実施した（教授准教授）。
- ・ 時間外学習が可能なようにテキストなど教材を作成し、学生に提供している。（教授）
- ・ グループ学習を取り入れている。（准教授）
- ・ シラバスに自習課題を記載している。さらに、原則として毎回演習を行い、答案を回収、採点、返却し、解答例を配布している。（教授）
- ・ 留年生の発生を抑制するために1年時に、基礎必修科目（力学、数学）の学習到達度が低いものに対し、28・29年度に続き、学科全体でチューターが補習を行い、再試験を行った。

- 成績不振者に対して、補習、再試験を行い挽回の機会を与える科目もある。（賛否両論あるため、教員個人に判断は任されている）

【機械工学部門】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- 実習では、授業の最初に安全講習と環境教育およびガイダンスを導入した。
- TAを採用し、きめ細やかな指導ができるよう目配りをした。
- 学生主導で実験を進めさせた。
- 実験レポートの書き方を徹底的に指導した。
- 実験でデータを取得したのち、公式に取得したデータを用いて値を計算するという方法をとった。これにより、式で示される物理量が具体的に理解できるようになった。
- 実験では、参考書を確認しながら、観察結果や実験データを検証させ、講義への理解を深めさせた。
- 実験では、講義や教科書で得られた知識に留まらず、実験を通しての体験を伴った知識として獲得できるように配慮した実験テーマを選定した。
- 自分の考えを要領よく相手に説明できるようになるためにプレゼンテーションの時間を設定した。
- レポートは、とくに考察・結論の妥当性・独自性を重視して評価した。
- 個別に提示した実験課題に関するプレゼンテーションの実施を通じて、情報発信能力、コミュニケーション能力を養い、実験の発展的な理解に努めさせた。
- 製図では、設計製図にかかわる基礎的知識を習得できるように工夫を施した。
- 製図では、実際の作図で必要となる知識と陥りやすい問題点を重点的に解説した。
- 製図では、TAによる検図を厳しくした結果、図面の完成度が上がった。
- 授業を円滑に進めるために、シラバスを配布して予習を促した。
- パワーポイントによるスライドを用いた講義を行った。
- パワーポイントを使用して式などがわかりやすいよう配慮した講義を実施した。
- パワーポイントを用いて講義を行ったが、重要な項目については、その重要度に応じて文字の色、フォントなどを変えることで視覚的にも訴えた。
- 教科書ばかりでなく、パワーポイントによるスライドを用いて講義を行った。また、スライドは印刷して配布した。
- 内容をより具体的に理解させるため、授業開始時にプリントを配布するとともに具体例を写真等を利用して解説した。
- 適宜ビデオや映像などを用いることで重要な点を明確にした。
- 前回の講義に欠席した受講生には講義内容の周知と、前回の講義に出席した受講生への復習を目的として、小テストの返却中に前回の講義で用いたパワーポイントで示した。

- 講義内容として座学とプレゼンテーションの両方を実施した。
- 講義毎に課題を提示し、その場、もしくは、次回の講義で解答・解説し、講義内容への理解が深められるように努めている。
- 講義と演習を効果的に行ったことや再試験までの学習時間を比較的長く設けた結果、合格率が向上した。
- 講義の最後に、その日の講義中で最も重要な項目について小テストを行い、次の講義の冒頭に、前回行った小テストを返却し、解答を示しながら解説を行った。
- テキスト各章末の演習問題について、典型的パターンを網羅するように問題を選定し、詳細な解説を行いポイントを明確にした。
- 演習を「自分で考える時間」・「他の人と話しながら解答を求める時間」・「答え合わせと解答の見直しをする時間」のように時間を分けて行うことで理解を深めることができるようにした。
- 例年に比べて、講義→練習問題→演習という流れを強化した。特に、講義で説明した後ですぐ練習問題を行い、時間を割いた。その結果、演習、定期試験共に平均点が上昇した。
- 講義中に演習問題を解かせ、その場で解答方法を示し、より実践的な構成とした。
- 授業内容の理解を深めるためにレポートを課した。
- 授業内容に対する理解を深め、学習効果を高めるために、適宜に演習を課すること期末試験のほかに中間試験等を実施した。
- 演習と一体の授業を行い、演習問題を解かせることで科目の学習内容への理解に努めた。
- 自己学習を促すため、ほぼ毎回の講義時に、時間外学習としての演習を課した。多くの学生は演習にも積極的に取り組み、受講者の成績は全般的に高い水準であった。
- アクティブラーニングとして個別に問題設定を行った。
- 通常の座学による講義とともに、実習を実施し、アクティブラーニング型の授業を実施した。
- 簡易的な実験を講義に実施したり、学生が興味を持てるような内容にした。
- 専門科目において、パソコンを用いた演習を幾分課した。積極的に課題に取り組み、ほとんどの受講生が指示通りのプログラムを完成できた。受講生からは達成感を伺わせるような意見があった。
- 個人差が発生する題材をベースに、試作、予測、改善のプロセスを実体験させることができた。
- 最新の研究内容について説明した。
- 実例を上げながら、面白く、分かりやすく授業ができた。
- 専門の基礎的内容について講義するとともに、その関連技術および環境問題などとの関連について概説した。

- 実際の工学的応用例との関連を示すなどして、受講者の授業への関心を喚起するように努めた。
- 授業では、地球環境問題の中から自分が興味を持ったトピックスを選ばせ、他学部や他学科の学生も含んだグループを作り、チームワーク力の修得を念頭において、各グループ内で課題について議論させ、共同でプレゼンテーションをさせた。
- 基礎内容を説明するとともに、近年の環境問題やエネルギー有効利用の観点から着目されている実例を示し、機械エネルギーの有効利用法の現状についても理解できるように配慮した。
- 基礎的事項から具体的な工学系の応用まで学習内容と関連させながら講義を行い、数回の演習課題により講義内容の十分な理解と修得を目指した。
- 機械工学の専門科目との関連性について説明を加え、学生の学習意欲の向上に努めた。
- 実例に近い問題をモデル化した演習問題を授業中に課すことで、興味をもって問題に取り組めるよう、さらに机上の学問の応用法について理解できるよう配慮した。
- 学生は、工学的にデータに基づき主体的に考え、進めて行くことが出来るようになった。
- **PBL** 関連科目については、今回の企業提供テーマは難易度が高い傾向にあったが、学生が自由な発想で課題を進めるようサポートした。
- 既習の内容との関連性を示しつつ、より専門性の高い内容を実用問題への応用を交えながら講義するよう心がけた。
- 板書や声の大きさ、姿勢など、効果的な学習指導に気を付けた。
- 学部改組に伴う講義の変化により極少人数での講義・演習を行うことができ、一人ひとりに対する対応が十分行えた。
- テキストでは省略されている式の導出過程や背景となる基礎知識等についても説明するなど、わかりやすい講義とするよう努めた。
- 関連事項の説明や参考書の紹介を、概説の時間に行っている。
- 学部1年次の科目は2年次以降の科目の土台となるため、全ての学生が十分な学力を身につけられるよう配慮した。
- 学生に最近注目されている適切なテーマを与え、発表させるなどの指導を行った。
- 共通科目を担当する教員間で協力して授業に使う資料を作成し、ほとんどの学生が基礎内容を修得できた。
- 受講者の自主的な学習と理解を促し、専門科目内容の知識を習得させることを目指した。
- 基本原理の説明に加え適宜演習を挟みながら講義を行い、内容の十分な理解と修得を目指した。
- 講義中に学生の反応を見ながら、理解に困難を伴っていそうな箇所では、補足の説

明や数式を書き込むなどし、理解の深化に努めた。

- 基礎知識のみならず、多少専門性の高い話題についても、難解にならないよう心がけながら可能な限り紹介した。

【電気電子工学部門】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- スライド動画、教科書、eラーニング教材を用いた予習を行わせる反転授業を実施（准教授）
- 講義資料のPDFと動画ファイルをWebページで公開（教授）
- 実験において、報告書に見本・サンプルを用意と、計測器や工具の説明書も追加して準備したことで、実験時間の短縮が実現（准教授）
- 科目履修用のWebページに配布資料や補足資料を複数追加し、欠席者の資料参照や復習に役立てている。（准教授）
- ICT機器を活用した双方向性の授業で、調査発表会を実施（准教授）

【都市工学部門】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されている。

- 担当科目の教育目標や評価方法をシラバスに明記し、周知徹底を図った。（教授、准教授）
- 外国人教員として、留学生の研究・教育および進路の相談を行うことで、留学生の質的向上に努めた。（准教授）
- Live Campus上に毎週講義後にアンケートを設定し、授業内容に関して学生とのインタラクションでの対話を行なった。（准教授）
- 他大学の教員との共同研究に学部四年生を参加させ、学生自ら研究方法等を考え、実効し、他大学の教員からの評価を得た。（教授、准教授）
- 学生自身による理解度チェックを導入し、理解度の向上に資する取り組みを行った。また、小テストやeラーニングを活用しながら、授業を行った。（教授、准教授）
- 講義や実験でTA（日本人および留学生）を採用し、教育効果を高めるようにした。（教授、准教授）
- 1年生対象の共通教育科目を開講するにあたり、担当する教員と共に模擬授業を行うなど、想定される学生のレベルに合うような議論を行いながら、有用な教材を作成することができた。（准教授）
- 学生の氏名をできるだけ覚えることにより、学生個々の特性を把握し、特に学業不振の学生あるいはその恐れのある学生についてのケアをなるべく早い時期から行った。（教授）
- わかりやすいシラバス作成を目指し、授業ごとにホームページを設け、シラバスと配布資料、課題やレポートの解答例等を、ホームページを通じて情報を開示した。（准教授）

- 授業の最終回の授業時間内に、アンケート回答時間を設け、授業評価アンケートの回答率をあげた。それらをもとに、次年度の授業改善に取り組んだ。(准教授)
- 大学院特別演習では、時宜に即した「佐賀豪雨」等に関わる事象をテーマとする演習課題を設定し、より身近な問題提議とした。(准教授)
- 勉学意欲が高くレベルの高い内容まで習得したい学生には、自由課題としてより深い理解ができるように努めた。(准教授)
- 周辺科目や留学生対象に、e-learning や動画等を多く使用して、視覚的な効果を期待するとともに、グループ討論や発表会も実施して自発的な参加を促した。(准教授)
- 教育に関するFD・SD研修会等に積極的に参加するとともに、学生による授業評価結果なども利用して教育の質の向上に努めた。(教授、准教授)
- 退学となったものの、問題を抱える学生に対し、父兄とも相談するなど、チューターとしての最低限のケアを実施した。(助教)

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて、理工学部各部門の教員は部門内でのFD活動の他、次の活動を行っている。

【数理部門】

- 理工学部FD講演会「安全保障輸出管理について」(教授)
- 理工学部FD講演会「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」(教授)
- 公正な研究活動の推進に関するFD講演会「神岡でのニュートリノ研究」(教授)
- データサイエンス教育FD研修会「データ駆動型社会におけるデータサイエンス教育の重要性」(教授、准教授)
- 理工学部FD講演会(情報セキュリティー研修会)「標的型攻撃に備える」(教授)への参加があった。

【情報部門】

- 理工学部FD講演会(教授、准教授、助教)
- 佐賀大学FD・SD講演会(教授、助教)
- 佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ作成WS(教授)
- ティーチング・ポートフォリオ(TP)研究会(教授)
- データサイエンス教育FD研修会(教授、准教授、助教)
- 国立大学法人等評価実務担当者説明会(教授)

【化学部門】

- 理工学部FD講演会「安全保障輸出管理について」(佐賀大学リージョナル・イノベーションセンター 客員教授 鈴木 勇次 氏)
- 公正な研究活動の推進に関するFD講演会「神岡でのニュートリノ研究」(国立大学法人東京大宇宙線研究所 所長 梶田隆章 氏)

- 理工学部 FD 講演会「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」(情報部門 中山功一 氏)
- データサイエンス教育 FD 研修「データ駆動型社会におけるデータサイエンス教育の重要性」(慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授 渡辺 美智子 氏)
- 理工学部 FD 講演会(情報セキュリティー研修会)「標的型攻撃に備える」(情報部門 只木進一 氏)
- ティーチング・アシスタントの事前研修及び指導を実施
- ラーニング・ポートフォリオ等による学生の学修状況の把握、学修相談への対応及び指導・助言を実施
- オフィスアワー等による学生からの学修相談への対応及び指導・助言を実施
- 九州地区大学教育研究協議会

【物理学部門】

- 全員が簡易版ティーチングポートフォリオ(TP)を作成しており、一部の教員が標準版 TP を作成している。
- 理工学部 F D 講演会に参加した(教授、准教授)。
- 大学が開催する FD 講演会に参加した(教授、准教授)。
- 韓国延世大学とのパートナーシッププログラムにおいて中心的な役割を果たし、大学院生向けに講義を行うとともに、参加者と学術交流をはかった(准教授)。

【機械工学部門】

- 部門内に設置した教務・JABEE グループによる JABEE 基準適合対応、学部および大学院の教務関連事項の検討
- 学部 FD 講演会への参加
- 地域連携実践キャリア教育において、地域企業の方の講演を聴講することによる地域への理解促進などが報告されている。

【電気電子工学部門】

- 理工学部 F D 講演会「ティーチングポートフォリオを利用した教育改善」(教授、准教授、助教)
- 理工学部 FD 講演会「安全保障輸出管理について」(教授、准教授、助教)
- データサイエンス教育 FD 研修「データ駆動型社会におけるデータサイエンス教育の重要性」(教授、准教授、助教)
- 理工学部 FD 講演会(情報セキュリティー研修会)「標的型攻撃に備える」(教授、准教授、助教)
- 公正な研究活動の推進に関する F D 講演会『神岡でのニュートリノ研究』(教授、准教授、助教)
- 国家公務員の給与の改定に係る本学の対応に関する説明会(教授、准教授、助教)
- 佐賀大学 FD/SD セミナー「学生が発言しやすい授業の雰囲気づくり」(教授、准

教授、助教)

- 研究力向上セミナー「出版社からみたアクセプトされやすい論文とは？」(教授、准教授)
- 理工学部講演会「知の創造シリーズ」第1回「深層学習はどこまで発展したか」(教授、准教授)
- 第9回九州工学教育協会シンポジウム(准教授)
- 理工学部重点研究の紹介(教授、准教授、助教)
- 令和元年度科学研究費獲得に向けた講演会(准教授)
- 第4回佐賀大学全学教育機構クリエイティブ・ラーニングセンターフォーラム(准教授)
- 大学eラーニング協議会オンライン勉強会(准教授)
- 【第1回FD・SD業務改善学習会】「タイムマネジメントの観点から自身の業務を点検する」(准教授)
- 理工学部長就任演説(助教)
- 学長就任式(教授、准教授、助教)
- 理工学部電気電子工学部門授業参観(教授、准教授、助教)
- 動物実験及び遺伝子組替えに関するFD・SD講演会(准教授)
- 総合分析実験センターのFD・SDセミナー「走査電子顕微鏡の基礎」(准教授)
- 佐賀大学標準版ティーチングポートフォリオワークショップ(准教授)
- 簡易版TP更新ワークショップ(准教授)

【都市工学部門】

- 部門内でのFD活動の他、工学系研究科FD報告会(教授、准教授)、佐賀大学FD/SDセミナー(准教授)への参加が報告されていた。

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、理工学部内の全ての教員が行っている。学科ごとの相談内容については、以下のとおりである。

【数理部門】

- 相談内容は学習方法や将来の進路に関するものが多い。(教授、准教授)

【情報部門】

- オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。
- オフィスアワー時間外でも随時相談を受け付けている教員も多い。
- チューター担当学生を中心に、研究や授業内容への質問や相談、履修に関することや進路に関する相談に対応している。(教授、准教授、助教)

【化学部門】

- オフィスアワーは全教員が設定しており、学生の訪問に対応している。(教授・准教

授・助教)

- オフィスアワー以外の時間においても、教員は学生の訪問・相談に適宜対応している。
- 学生からのメールによる相談についても対応している。
- 毎学期毎に担当学生全員に対し、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター面談を実施している。
- 学生の訪問・相談は、コース主任や教務委員、教育プログラム委員長、就職担当教員などに対するものが多い。
- 授業に関する質問が最も多く、その他履修上の相談や就職に関する相談・報告、進路等の相談など多岐にわたる。

【物理学部門】

- 成績不振者を学科全体で把握しチューターを中心に、学生（時には両親）と面接するなど、学生の学習体制の改善をはかり、留年率を下げるための努力に取り組んでいる。
- 進路不明者を出さないために、指導教員を中心に就職担当と協力し学生の就職、進学支援を行っている。
- 学生のオフィスアワーでの相談率は1割程度と低く、オフィスアワー制度があまり有効に機能していないように思える。ただ、大半はオフィスアワー以外での訪問をしている。

【機械工学部門】

- オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。
- 相談内容のほとんどは就職・進路相談と学修相談についてであるが、一部の学生から日常生活に関する相談もある。

【電気電子工学部門】

- 相談内容は授業科目や試験関連、実験レポートの質問に関するものが多い。休学等の在籍についての相談もある。（教授、准教授、助教）

【都市工学部門】

- 各教員が設定した時間帯はもちろん、研究室学生については、適宜全教員が行っている。
- 相談内容は学修相談および進路相談に関するものが多い。
- 教職チューターによる学生面談や過年度生や学生保証人との面談なども随時実施されている。
- 面談方法は、対面、電話、資料送付など、できるだけ学生に寄り添えるように配慮されている。

3.1.5. 学生の受賞等

【情報部門】

- 佐賀大学 学生ベンチャービジネスプランコンテスト：グランプリ（指導教員：准教授）
- 日刊工業新聞社主催、第16回キャンパスベンチャーグランプリ（cvg）全国大会：経済産業大臣賞／ビジネス部門大賞（最優秀賞）（指導教員：准教授）
- 一般社団法人九州ニュービジネス協議会、第19回九州・大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト：グランプリ（指導教員：准教授）
- 佐賀大学理工学部菱実会 広報賞（指導教員：准教授）
- 佐賀大学理工学部菱実会 第4回菱実会賞（指導教員：准教授）
- 佐賀大学同窓会賞（指導教員：准教授）
- ICoMMS2019 Best Presenter（指導教員：准教授）
- 佐賀県及び佐賀県ベンチャー交流ネットワーク さがラボチャレンジカップ 2019：優秀賞（指導教員：准教授）
- 教育システム情報学会 2019年度学生研究発表会優秀発表賞（指導教員：教授）

【化学部門】

- 日本分析化学会九州支部
九州分析化学奨励賞（指導教員：教授）
- The International Joint Meeting of the Polarographic Society of Japan (PSJ) and National Taiwan University
Excellnet Poster Award（指導教員：教授）
- 2019 Japan/Taiwan/Korea Chemical Engineering Conference
Excellent Poster Award（指導教員：准教授）
- 油化学界面科学部会
優秀ポスター賞（指導教員：教授）
- The 3rd Tri-U Saga-Daegu-Soochow University International Symposium
Poster award（指導教員：教授）
- 日本化学会九州支部
若手研究者奨励賞（指導教員：教授）
- The 10th Joint Seminar between Saga University and Liaoning University
Poster Award（指導教員：准教授）
- 第12回酸化グラフェンシンポジウム
ポスター賞（指導教員：准教授）
- 第10回 有機分子・バイオエレクトロニクスの未来を拓く若手研究者討論会
ベストプレゼンテーションアワード受賞（指導教員：准教授）
- The 3rd Tri-U Saga-Daegu-Soochow University International Joint Symposium
Poster award（指導教員：准教授）

【機械工学部門】

- 日本機械学会 島山賞
- 日本機械学会 三浦賞
- 日本設計工学会 武藤栄次賞
- 日本冷凍空調学会賞・学術賞（指導教員：教授）
- 計測自動制御学会九州支部学術講演会学生発表交流会優秀発表賞（指導教員：教授）

【電気電子工学部門】

- 電子情報通信学会九州支部・学生会講演奨励賞（指導教員：准教授）
- 応用科学学会・演算増幅器設計コンテスト(2件)（指導教員：准教授）
- 応用物理学会九州支部・2019年度応用物理学会九州支部発表奨励賞（指導教員：教授）
- フロンティア太陽電池セミナー実行委員会・第4回フロンティア太陽電池セミナー優秀ポスター賞（指導教員：教授）
- 電気学会・平成30年基礎・材料・共通部門研究会優秀論文発表賞（指導教員：准教授）
- 電気学会・平成30年優秀論文発表賞(基礎・材料・共通部門表彰)（指導教員：准教授）
- IEEE Instrumentation & Measurement Society・2018年度 IEEE IM Japan Chapter Student Award（指導教員：准教授）
- 産業応用工学会・産業応用工学会賞（指導教員：准教授）
- APCAP2019・Best Paper Award (Gold) in APCAP2019（指導教員：教授）
- IEEE福岡支部・2019年IEEE福岡支部発表奨励賞（第9回）（指導教員：教授）
- 電子情報通信学会九州支部・電子情報通信学会九州支部学術奨励賞（指導教員：教授）
- 電子情報通信学会九州支部・電子情報通信学会九州支部成績優秀賞（指導教員：教授）
- 佐賀大学・佐賀大学学生表彰（学長賞）（指導教員：教授）
- 電気学会九州支部・電気学会九州支部長賞（指導教員：教授）
- 第27回電子情報通信学会九州支部学生講演会講演奨励賞（准教授）
- 2019年演算増幅器設計コンテスト シミュレーション部門・デザイン部門 奨励賞（准教授）

【都市工学部門】

- 日本コンクリート工学会九州支部長賞
- 日本建築学会大会（北陸）学術講演会農村計画部門若手優秀発表賞
- 2019年度日本建築学会九州支部支部長賞
- CLT アイディアコンテスト2019 アイディア部門・審査委員賞

- 令和元年度地盤工学会九州支部優良学生賞
- 第19回せんだいデザインリーグ2020 上位20選
- 第25回福岡デザインレビュー2020 JIA 賞
- 第11回ハーフェレ学生デザインコンペティション 入選・ベストプレゼンテーション賞
- 2019年度支部共通事業日本建築学会設計競技 九州支部入選
- 2019年度日本都市計画学会九州支部支部長賞

なお、2月下旬以降、新型コロナウイルスによる各種学会の開催中止が相次ぎ、学生による研究成果の発表の場が制限され、学生受賞件数に影響を与えた可能性は否定できないといえる。

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書，論文等の発表実績

過去5年間（2016.4.1～2020.3.31）の発著書，論文等の発表実績を表3.2に示す。

表 3.2 過去5年間（2016.4.1～2020.3.31）の発著書，論文等の発表実績平均値

学科	職 種	著書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理部門	教 授	0.00	5.33	5.00	0.00	0.00	5.33	5.00
	准教授 (含講師)	0.20	3.20	3.00	0.40	0.40	2.80	2.60
情報部門	教 授	1.14	11.86	11.14	1.71	1.00	10.14	10.14
	准教授 (含講師)	0.17	14.33	16.50	1.83	1.50	12.50	15.00
	助 教	0.00	2.00	2.33	0.33	0.33	1.67	2.00
化学部門	教 授	1.33	13.08	12.33	1.00	0.50	11.92	11.92
	准教授	1.14	17.00	16.14	1.14	0.86	15.57	15.57
	助 教	0.00	7.33	7.33	0.00	0.00	7.33	7.33
物理学部門	教 授	0.40	3.80	3.60	0.40	0.40	6.00	5.80
	准教授	0.00	74.29	74.00	0.29	0.14	74.00	73.86
機械工学部門	教 授	1.00	20.78	19.00	2.44	0.67	18.33	18.33
	准教授 (含講師)	0.31	11.85	10.77	3.54	2.15	8.31	8.62
	助 教	0.00	3.33	3.00	0.33	0.00	3.00	3.00
電気電子工学部 門	教 授	0.56	21.22	20.78	4.33	3.89	16.89	16.89
	准教授 (含講師)	0.17	14.83	8.58	2.50	2.42	6.08	6.08
	助 教	0.33	11.33	11.33	1.67	1.67	9.67	9.67
都市工学部門	教 授	0.56	24.11	19.89	5.67	3.56	18.67	16.56
	准教授 (含講師)	1.00	8.18	6.82	5.36	4.00	3.36	2.91
	助 教	1.00	12.00	11.00	4.00	3.00	8.00	8.00

【数理部門】

- 教授の研究活動は平均的に見てかなり良好である。
- 准教授の研究活動は平均的に見て良好である。

【情報部門】

- 教授の研究活動は、非常に活発に原著論文での研究成果公表行っており、原著論文は和文よりも英文で記述していることが読み取れる。
- 准教授の研究活動は、非常に活発で、論文発表においては、教授を上回る成果を示している。
- 助教の研究活動には、ばらつきがあり、非常に活発に論文発表をする人がいる一方で、発表論文数が極めて少ないものが見られる。

【化学部門】

- 教授の研究活動は良好である。従来よりも大学運営の負担増加にも関わらずに平均して良好な研究活動が維持されている。しかしながら、徐々にアウトプットが減少の傾向にある。
- 准教授の研究活動は良好である。准教授の教育負担も確実に増加しているが審査付論文に約 16 報（5 年間）を報告している。
- 助教の研究活動は普通である。査付論文に約 7 報（5 年間）を報告している
いずれの教員も審査付国際論文への投稿が大部分である。和文の論文は学会などから依頼された総説類と推察され、和文論文でも国内学会にはそれなりの貢献を果たしていると考えられる。昨年度と同様に本年度も准教授の論文数が教授よりも高く、研究活動多が高いレベルで維持されていることが判断できる。

【物理学部門】

- 教授の研究活動は個人差があるが、平均として高い水準にある。
- 准教授の研究活動は個人差があるが、高いアクティビティを示している。特に、准教授一名の大型共同研究論文（400 編以上）が論文数を押し上げている。

【機械工学部門】

- 教授の研究活動は、概ね良好な研究活動が継続的に行われていると評価できる。
- 准教授の研究活動についても、概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。
- 助教の研究活動についても、概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。

【電気電子工学部門】

- 教授の研究活動は、博士後期課程学生の博士号認定資格を維持している。論文総数の平均は約 4.2 編／年であり、その 79.6%は英文論文であり、また英文論文のすべてが査読付きの業績であることから、質の高い研究成果を発表していると評価できる。
- 准教授の研究活動は博士前期課程学生の修士号認定資格を維持している。論文総数の平均は約 3.0 編／年である。教員により論文の発表実績のばらつきが大きい。

- 助教の研究活動は博士前期課程学生の指導資格を概ね維持している。論文総数の平均は約 2.27 編／年であり、すべて査読付きであるとともに、85.3%が英語原著論文である。教員により論文の発表実績のばらつきが大きい。

【都市工学部門】

- 教授の研究活動は著書や査読付き論文で大きな成果を挙げている。ただし、この表に示していないが、論文数の個人差が大きく、博士後期課程の指導学生数が多い教員に査読付き論文数が集中し、逆に博士後期課程学生のいない教員は留学生受け入れにも関係し、英文原著論文数よりも和文原著論文数がやや多い傾向にある。
- 准教授・講師の研究活動は著書数および査読付き和文原著で教授をわずかに上回っている。教授同様、この表に示していないが、准教授・講師の論文数では個人差が大きい。
- 助教の研究活動は連携する教授とも相まって、総論文数と英文原著論文は准教授を上回っている。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理部門】

- 他大学の研究者との共同研究（教授、准教授）
- RIMS 共同研究の組織・運営（准教授）
- 共同利用・共同研究システムへの参画（教授）

【情報部門】

- 国立研究機関からの委託研究（教授、助教）
- 国立研究機関の共同研究（教授、准教授）
- 民間企業との共同研究（教授、准教授、助教）
- 他研究機関との科研費関連のプロジェクト（教授、准教授、助教）
- 佐賀県との共同研究（教授）
- 他大学との共同研究（教授、准教授）
- 工業高等専門学校との共同研究（教授、准教授）
- 佐賀大学農学部との共同研究（教授、准教授）
- 佐賀大学教育学部との共同研究（准教授）

【化学部門】

科学研究費補助金に新規・継続合わせて 13 件が採択されている（研究代表者のみ）（教授・准教授・助教）

民間企業や産業技術総合研究所等との共同・受託研究や寄附金が 19 件ある

NEDO と JST の採択が 4 件ある

- 佐賀市（教授）
- 佐賀県窯業技術センター（教授・准教授）
- 産総研九州センター（教授・准教授）

- 九州大学（教授）
- 熊本大学（教授）
- インドネシア・スラバヤ工科大学（教授）
- インドネシア・ガジャ・マダ大学（教授）
- インドネシア・スリビジャヤ大学（教授）
- インド・ガンジーグラムルーラル大学（教授）
- ドイツ・ドレスデン工科大学（教授）
- 韓国・大邱大学（教授・准教授）
- 中国・遼寧大学（教授・准教授）
- フランス・リール大学（教授・准教授）
- 米国・シラキュース大学（教授）
- 米国・オクラホマ州立大学（教授）
- フランス・ブルゴーニュ大学（教授）
- 英国・イースト・アングリア大学（准教授）
- 中国・蘇州大学（教授・准教授）
- 日本原子力研究開発（教授）
- 民間企業（教授・准教授）

【物理学部門】

- 九州大学との共同研究（教授、准教授）
- 国際リニアコライダー計画の共同研究（教授、准教授）
- 産総研との共同研究（教授）
- 理化学研究所との共同研究（教授、准教授）
- 佐賀大シンクロトロンでの共同研究（教授、准教授）

【機械工学部門】

- 国，独立法人，民間等からの受託研究（教授，准教授）
- 国内の大学からの受託研究（教授，准教授）
- 独立法人，民間との共同研究（教授，准教授，助教）
- 国内外の大学との共同研究（教授，准教授）
- 民間，財団法人等からの教育研究助成（教授，准教授，助教）

【電気電子工学部門】

- 民間企業との共同研究（教授、准教授、助教）
- 産総研との共同研究（教授）
- 地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所との共同研究（助教）
- 佐賀県との共同事業（教授）
- 民間企業からの受託研究（助教）
- 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構からの受託研究（教授）

- 国立研究開発法人科学技術振興機構からの受託研究（准教授、助教）
- 国立大学法人名古屋大学からの受託研究（教授）
- 独立行政法人国際協力機構 ABE イニシアティブ受入（教授）

【都市工学部門】

- 佐賀大学プロジェクト研究所「国際在来知歴史学研究所」にて他分野の研究者と共同研究を実施した。（教授、准教授）
- ICT 防災まちづくりデザイン研究所の所長として、学部間・学科間・産官学の研究プロジェクトを主宰した。（教授）
- 肥前セラミック研究所を通じた研究プロジェクトを実施した。（講師）
- 学外のプロジェクト「SAGA 健康・省エネ住宅推進事業」を医学部教授および民間企業とともに実施している。（教授）
- 理工学部内の横断的研究組織「再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム」において、未利用熱利用空調システム研究分科会を開設し、佐賀県ならびに関連企業と共同で研究活動を行った。（教授）
- JR 肥前浜駅交流拠点施設広場整備プロジェクトに他分野の教員や九州大学・熊本大学の教員と連携して携わり、計画をとりまとめた。（教授、准教授）
- 佐賀県内の(株)協和製作所との共同研究「無動力式自動ゲートの水理に係る研究」を実施している。（教授、准教授）
- 大学間の横断的な研究プロジェクトとして、文部科学省の気候変動適応技術社会実装プログラム (SI-CAT) および、佐賀大学を中心とする「有明海地域共同観測プロジェクト (COMPAS)」に参画して、共同研究を実施した。（准教授）
- 北京工業大学（中国）との共同研究を実施した。（教授、准教授）
- カセサート大学工学部環境工学科の教員及び学生とタイの水環境に関する共同研究を継続的に実施している。（准教授）
- インドネシアの 3 大学との国際交流を基に、国際共同研究の申請を実施した。（准教授）
- 民間企業からの奨学寄附金（間接経費含む）を受け入れ、共同的な研究作業を実施した。（教授）
- 長崎大学、企業（2 件）等の受託・共同研究を実施した。（教授）
- 産廃物の有効利用に関する研究で共同研究（(有)福嶋窯材）を行った。（講師）
- 鹿島市・嬉野市より受け入れた共同研究を研究代表者として実施した。（教授）
- 佐賀県からの受託研究を受けた。（教授）
- 科研費基盤研究 (B) 代表として採択された。（教授）
- 科研費基盤研究 (C) 代表として採択された。（教授、准教授）
- 科研費基盤研究 (C)、挑戦的萌芽研究および若手研究 (B) 代表として、研究を継続している。（教授、准教授）

- 科研費基盤研究 (B) および (C) の分担者として、長崎大学と共同研究を行っている。(教授)
- 科研費基盤研究 (C) の分担者として、東北大学と共同研究を行っている。(准教授)
- 河川財団、一般社団法人九州地方計画協会への競争的資金に応募し、研究費を獲得した。(教授、准教授)

3.2.3. 受賞等の実績

教員の指導による学生の受賞等は、3.1.5 に記載している。

【数理部門】

- 日本数学会より代数学賞を受賞 (准教授)

【情報部門】

- 日本生理人類学会 論文奨励賞 (教授)
- BEST PAPER AWARD, International Conference on Convergence Contents, December 2019 (助教)

【物理学部門】

- IC-LYMS 2019 より outstanding research achievement and contribution を受賞 (教授)

【機械工学部門】

- 佐賀県工業大賞 (准教授)
- Best Poster Presentation Award (准教授)
- FOOMA AP 賞【出展者評価部門】(教授)

【電気電子工学部門】

- APEX JJAP 編集貢献賞 (教授)
- 2019 年度英国物理学会出版学術雑誌 Plasma Sources Science and Technology の査読における IOP Publishing 'Outstanding Reviewer' Award 受賞 (教授)
- 第 35 回ファジィシステムシンポジウム ポスター・デモセッション優秀発表賞 (准教授)
- 産業応用工学会全国大会 2019 産業応用工学会賞 (准教授)

【都市工学部門】

- 令和元年度九州地方発明表彰 発明奨励賞 (教授)
- 佐賀の木・家・リニューアル・まちづくり賞リニューアル部門・知事賞 (教授、准教授)
- 日本建築学会 建築九州賞 (作品賞) JIA 特別賞 (准教授)
- SD レビュー2019 朝倉賞 (准教授)
- 東峰村農家レストラン新築工事設計コンペ 最優秀賞 (准教授)
- 第 32 回福岡県美しいまちづくり建築賞 優秀賞 (准教授)
- ウッドデザイン賞 奨励賞 (審査委員長賞) (准教授)
- JIA 日本建築家協会 優秀建築選 2019 (准教授)

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理部門】

- ・ 国際研究集会での講演（教授、准教授）
- ・ 国外の研究者との共同研究（教授、准教授）

【情報部門】

- ・ ベトナム UIT 大及び学内のベンチャー企業 Citynow ASIA 社との連携（教授）
- ・ 国際パートナーシッププログラムへの協力（教授、准教授）
- ・ 留学生受け入れ（教授）

【化学部門】

- ・ 国際パートナーシップ教育プログラムによる遼寧大学(中国)の教員・学生の招聘(教授・准教授・助教)
- ・ 国際パートナーシップ教育プログラムによる大邱大学(韓国)の教員・学生の招聘(教授・准教授・助教)
- ・ 第1期 JST さくらサイエンスプランによるスラバヤ工科大学(インドネシア)ならびにスリビジャヤ大学(インドネシア)から教員・学生招聘(教授)
- ・ 第2期 JST さくらサイエンスプランによるスラバヤ工科大学(インドネシア)とカリマンタン工科大学(インドネシア)から教員・学生招聘(教授)
- ・ シラキユース大学(米国)の教員の招聘(教授)
- ・ ドレスデン工科大学(ドイツ)からの学生の受入(教授)
- ・ ドレスデン工科大学(ドイツ)からの教員の受入(教授)
- ・ ブルゴーニュ大学(フランス)から学生の受入(教授)
- ・ オクラホマ州立大学(米国)の教員の招聘・受入(教授、准教授)
- ・ スラバヤ工科大学(インドネシア)の研究者との共著論文(教授)
- ・ ガジャ・マダ大学(インドネシア)の研究者との共著論文(教授)
- ・ リール大学等(フランス)の研究者との共著論文(教授)
- ・ スラバヤ工科大学(インドネシア)での招待講演(教授)
- ・ スリビジャヤ大学(インドネシア)での招待講演(教授)
- ・ チュラロンコン大学工学部(タイ)での招待講演(教授)
- ・ ブン・ハッタ大学(インドネシア)での招待講演(教授)
- ・ カリマンタン工科大学(インドネシア)での招待講演(教授)
- ・ カジャマダ大学(インドネシア)での招待講演(教授)
- ・ 蘇州大学、大邱大学との交流(教授・准教授)
- ・ ドレスデン工科大学(ドイツ)での講演と講義(教授)
- ・ ブルゴーニュ大学(フランス)との共同研究(教授)
- ・ イースト・アングリア大学(英国)との共同研究(准教授)

- International Advisory Board, The 16th International Conference on Quality in Research (インドネシア) (教授)
- 部局間 MOU 締結準備のためのチュラロンコン大学工学部 (タイ) 訪問 (教授)
- 部局間 MOU 締結のためのカリマンタン工科大学 (インドネシア) 訪問 (教授)
- 部局間 MOU 締結準備のためのブン・ハッタ大学 (インドネシア) 訪問 (教授)

【物理学部門】

- 工学系研究科国際パートナーシップ開催 (教授、准教授)
- SPACE 留学生受け入れ (教授)
- 海外共同研究者の招聘 (教授、准教授)
- 共同研究のための渡航 (教授、准教授)
- 海外でのシンポジウム、ワークショップでの講演・参加 (教授、准教授)

【機械工学部門】

- 国際学会, 会議の運営委員, 実行委員など (教授)
- 海外研究者や留学生の受け入れ (教授)
- 国際サマーキャンプ (教授)
- STEPS 海外研修 (准教授)
- 国際会議における招待講演, 発表等 (教授, 准教授, 助教)

【電気電子工学部門】

- STEP_s 海外研修 (教授)
- 国際共著論文の発表 (教授)
- 日中大学フェア&フォーラム inCHINA2019 (教授)
- 41st International Symposium on Dry Process (教授)
- ISPlasma2020/IC-PLANTS2020 (教授)
- Asian Wireless Power Transfer Workshop (AWPT2019) (教授)
- 学生との共同研究の発表 (准教授)
- ICANN2019 に参加及び発表 (准教授)
- ISOTT2019 参加 (准教授)
- 8th Asia-Pacific Conference on Antennas (准教授)
- 2018 Fall 特別聴講学生 (SPACE-E) (教授)
- PPGA 留学生 (教授)
- Compumag2019 に参加し発表、資料収集、資料作成、研究打ち合わせ (助教)
- 国際パートナーシップ教育プログラム (教授、准教授、助教)
- 13th Nanodiamond and Nanocarbon conference (教授)
- diamond semiconductor seminar・研究打合せ (教授)
- The 3rd International Workshop on Gallium Oxide (教授)
- ICDCM international conference on diamond (教授)

- 2019 MRS Fall Meeting & Exhibit 出席（教授）
- SPS2019 にて招待講演、研究打ち合わせ、資料収集（助教）
- Compumag2019 に参加し発表、資料収集、資料作成、研究打ち合わせ（教授）
- 電力機器の磁界解析に関する講義・共同研究・調査研究（教授）
- 「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2019」出展（教授）
- 2019 Asia-Pacific Workshop on Fundamentals（教授）
- 2019 Asia-Pacific Microwave Conference 出席（准教授）
- 国費留学生（教授）
- ABE イニシアチブ留学生（教授）
- Asian Wireless Power Transfer Workshop 出席（教授）
- 表敬訪問及び視察・講和参加（教授）
- 学部間交流協定の調印式及び研究打合せ（教授）
- 46th IEEE Photovoltaic Specialists Conference 出席（教授）
- Photonic West 2020 出席及び共同研究打合せ（教授）
- Photonics West2020 参加（教授）
- ICCAS2019 参加（助教）

【都市工学部門】

- 北京工業大学との大学間学術交流を促進するために、弊職と同僚の教員が北京工業大学に1週間滞在し、同大学の教員らと共同研究を実施した。（教授、准教授）
- 上海交通大学とともに都市環境と地域エネルギー分野に関わる共同研究を継続させた。（准教授）
- 世界の低平地の水問題を取り上げた講演会を主催し、ポーランドの低平地における水環境問題について情報発信した。（准教授）
- 東南アジアの都市水環境に関する共同研究を通じてタイのカセサート大学の教員と継続的に交流を行い、また、2019年8月～9月にカセサート大学工学部環境工学科の学生に対して特別講義を実施し、途上国における社会貢献につながるよう努力した。（准教授）
- ” One Asia Foundation ” の一環として、インドネシア・パルのタドゥラコ大学で General Lecture を行った。（准教授）
- 佐賀大学「インドネシア国際協働教育研究コンソーシアム」に参画し、インドネシア・スラウェシ島内の3大学（ハサヌディン大学、タドゥラコ大学、サムラトゥランギ大学）との交流を進めた。（教授、准教授）
- アジアハウジングワークショップ 2019『神楽坂に暮らす -暮らしに馴染む集合住宅のあり方-』に佐賀大学3年生6名の学生を引率、指導教員としてグループを担当した。Tam Kang University（台湾）、UCSI University（マレーシア）、日本女子大学、佐賀大学の4大学が参加。（准教授）

- 鹿島市肥前浜宿で環アジア国際セミナーを実施し、タイ、カザフスタン、オランダから講師を招聘して講演会を行った。（教授）
- 環アジア国際セミナーを7月に実施し、韓国・タイ・カザフスタン・オランダ・オーストリアの教員・学生を招聘し、鹿島市肥前浜宿の住民や建築家と協力して実施した。（教授）
- タイ・タマサート大学(12月)で開催された国際ワークショップに学生8名を帯同して参加した。（教授）
- JASSO 海外留学支援制度（受入・派遣）に応募し、採択された。（教授）
- ロシア・モスクワ経営大学主催のシンポジウム「大都市の環境行政」、12月に国際会議 ICBEED2019（京都）で、キーノートスピーチを行った。（教授）
- タイ・チェンマイ大学の教員、オーストリア・ウィーン工科大学の教員・学生を受け入れて、鹿島市肥前浜宿などを案内して交流を行った。（教授）
- 国際課主催のワークショップへの参加、SPACE-E 学生受入れならびに講義担当、交流協定の見直しなどの活動により貢献した。（講師）
- 日本政策金融公庫主催のミャンマー視察において、現地大学からの学生参加の調整を行った。（講師）
- スペインと中国からの客員研究員を受け入れた。（教授）
- 中国温州大学、中国同濟大学との共同研究を実施した。（教授）
- 国際ジャーナル誌の編集委員会委員長や委員として活動した。（教授）
- 実行委員長として、中国内モンゴル師範大学において第9回在来知歴史学に関する国際シンポジウムを実施した。（教授）
- 国際パートナーシップ教育プログラムによって、中国同濟大学、上海交通大学の大学院生の指導を行った。（教授）
- 国際交流推進センター「令和元年度国際研究者交流事業」に採択され、インドネシア・ハサヌディン大学におけるインターナショナルコース学生の本学への受入体制の強化を図った。（教授）
- 「国際パートナーシップ教育プログラム」に採択され、「Asian を対象とした国際協働教育プログラム～低平地都市における社会資本の開発と管理～」の副担当として若手教員の国際教育手法の育成に貢献した。（教授）
- JST さくらサイエンスプランに応募し採択され、主担当者として中国浙江理工大学との国際交流を行った。（准教授）
- 環アジア国際セミナー2019 を佐賀大教員・学生とともに、佐賀県鹿島市で開催し、タマサート大学・チェンマイ大学（タイ）・カザフ高等建築アカデミー（カザフスタン）・タンリン工科大学（ミャンマー）・アイントホーフエン工科大学（オランダ）・ウィーン工科大学（オーストリア）から教員7名・学生65名を招聘した。（教授、准教授、助教）

なお、国際交流を推進する教員の多くが、2月下旬以降の新型コロナウイルス感染拡大影響により、当初の計画をやむなく中止したとの報告が多数あった。

3.3.2. 社会貢献実績

【数理部門】

- 論文査読（教授、准教授）
- アメリカ数学会レビューアー（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授、准教授）
- オープンキャンパスでの模擬授業（教授）
- 高等学校教諭との交流会の主催および出席（教授、准教授）
- 他大学大学院での集中講義（准教授）
- 国外の大学での大学院生向けの集中講義（教授）

【情報部門】

- 学会役員（教授）
- 協会等理事（教授）
- 協議会座長（教授）
- 審議会等委員（教授）
- 学会等運営委員（教授、准教授）
- 学術委員会等委員（教授、准教授）
- 学術論文誌編集委員会委員（教授、准教授）
- 国際論文誌編集委員会委員（准教授）
- 学会誌編集委員会委員（助教）
- 国際会議実行委員（准教授）
- シンポジウム等運営委員（准教授）
- 佐賀県の委員会・審査会の委員（教授）
- 佐賀県警察サイバー犯罪対策技術アドバイザー（准教授）
- ジョイントセミナー等高大連携イベント講師（教授、准教授）
- シンポジウム・講演会等講師（教授、准教授）
- プログラミング講座講師（准教授）
- 他大学のFD研修会講師（教授）
- 国際規格委員会委員（准教授）
- 佐賀大学 RIC と協力した佐賀大学発ベンチャーの起業（准教授）
- 地元企業とのインターンシッププログラム（教授）

【化学部門】

- 学会等の論文査読委員（教授・准教授・助教）
- 日本化学会九州支部 幹事（教授）

- 日本化学会九州支部 化学教育協議会 (教授)
- 日本分析化学会 代議委員 (教授)
- 日本分析化学会九州支部監査 (教授)
- 日本分析化学会九州支部 幹事 (教授、准教授)
- 日本分析化学会 電気分析化学研究懇談会 運営委員会委員
- 日本分析化学会九州支部第 60 回分析化学講習会実行委員長 (教授)
- 電気化学会 各賞選考委員会委員 (教授)
- 電気化学会 選挙管理委員会委員 (教授)
- 電気化学会九州支部 幹事常議員 (教授)
- 電気化学会 ナノ界面・表面研究懇談会常任委員 (教授)
- 日本ポーラログラフ学会 理事 (教授)
- 日本ポーラログラフ学会 編集委員 (教授)
- 日本法科学技術学会 評議委員 (教授)
- 第 29 回日本 MRS 年次大会 シンポジウムオーガナイザー (教授)
- 佐賀エコプラザ運営委員会委員 (教授)
- 佐賀市環境審議会委員 (教授)
- 佐賀県窯業技術センター運営委員会委員 (教授)
- 佐賀県窯業技術センター研究評価委員会委員 (教授)
- 佐賀市環境マネジメントシステム内部環境監査 (教授)
- 中性子課題審査分科会委員 (教授)
- 化学工学会第 50 回化学工学の基礎講習会 (教授)
- **Bulletin of the Chemical Society of Japan** の編集委員 (教授)
- 化学工学会九州支部幹事 (教授)
- 日本セラミックス協会九州支部 常議員 (教授)
- 佐賀県窯業技術センター運営委員会 (教授)
- 九州ファインセラミックス・テクノフォーラム (教授)
- 致遠館高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業「理系ガイダンス講座」(准教授)
- 高大連携事業「科学へのとびら」研究体験プログラム講師 (准教授)
- 佐賀大学ジョイントセミナー (教授)
- 第 19 回 佐賀県理科・化学教育研究発表会 (教授)
- SAGA ものすごフェスタものづくり体験 (教授、准教授)
- 「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」講師 (教授)
- 日本技術者教育認定機構 審査研修員 (教授)
- ものづくり技術者育成講座 (教授・准教授)
- 化学グランプリ 2019 (教授)

- 佐賀医師会立看護専門学校非常勤講師（教授）
- 放送大学非常勤講師（教授）
- 崇城大学非常勤講師（教授）
- 高校総文祭自然科学分野審査員（教授）
- JST 審査委員会委員（教授）
- JSPS 審査会専門委員（教授）

【物理学部門】

- 論文査読委員（教授、准教授）
- 学会論文誌編集委員（教授、准教授）
- 九州高等学校理科学研究発表大会審査委員（教授、准教授）
- 高大連携、ジョイントセミナーでの出前授業（教授、准教授）
- さが総文での審査員を担当（教授、准教授）
- 宇宙を学べる大学 in Kyusyu の開催（教授、准教授）
- 筑波大学のアドバイザー委員（教授）
- 佐賀経済同友会例会セミナーでの講師（准教授）
- 鳥栖市教育委員会教育委員（教授）

【機械工学部門】

- 学会理事（教授）
- 学会評議員（教授）
- 学会校閲委員・編集委員・運営委員（教授）
- 学会九州支部理事・評議員・商議員・常議員など（教授、准教授）
- 研究会会長・幹事など（教授、准教授）
- 学会開催の実行委員・運営委員など（教授）
- 県審議会・連携会議委員会委員（教授）
- ジョイントセミナー（准教授）
- スーパーサイエンスハイスクールの講師（准教授）
- 科学へのとびら（准教授）
- 佐賀再エネパイオニア育成講座（教授）
- 佐賀県ロボット研究会（准教授）
- 産業保健研修会（教授）
- 地域企業技術相談・勉強会（教授、准教授）

【電気電子工学部門】

- 令和元年度高度技術研修 電気電子コース 基礎電気電子担当（准教授）
- 「科学技術専門家ネットワーク」におけるインターネットを介した情報収集への任意協力（アンケート回答や情報提供など）（教授）
- 電気学会九州支部の活動（准教授）

- 学会の九州での活動（教授）
- 学会の運営（教授）
- 学会の九州での活動
- 佐賀県内の企業の工業見学と技術に関する意見交換及び助言（教授）
- 企業に関する技術相談（教授）。
- プラズマ核融合学会の活動、学生支援（教授）
- 科研費の審査（教授）
- プラズマ核融合学会の活動、学生支援（教授）
- プラズマ源の開発（教授）
- プラズマ核融合に関する教育活動や学生発表への支援（教授）
- 学会投稿論文の審査手続きの担当（教授）
- 電気学会計測研究会の開催や、電気学会特集論文の企画（准教授）
- エネルギーに関する産学官連携のオープンイノベーションに基づいた活動（教授）
- 地元佐賀の六角小学校の児童、保護者、教諭に対する学科紹介の一貫での研究室紹介（准教授）
- 光音響イメージングシステムの開発、及び、臨床研究に向けた検討（准教授）
- ポータブル光音響イメージング装置の開発（准教授）
- ジョイントセミナー（准教授）
- 佐賀県スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員（教授）
- 佐賀大学高大連携プロジェクト「科学へのとびら」（准教授）
- 佐賀県立致遠館高等学校 SSH 大学研修（准教授）
- 佐賀県立致遠館高等学校 SSH 課題研究指導（准教授）
- 佐賀県立致遠館高等学校 SSH リサーチセミナー（准教授）

【都市工学部門】

国、自治体からの依頼により、審議委員会や技術検討委員会等の委員長や委員を務めた。例えば、以下の通りである。

- 国土交通省の「筑後・佐賀平野地盤沈下防止等対策評価検討委員会」及び佐賀市の「佐賀市排水対策基本計画検討委員会」の依頼に応じて委員を務めた。（教授、准教授）
- 環境省有明海・八代海総合調査評価委員会委員をはじめ、国土交通省（九州河川技術懇談会委員、六角川学識者懇談会委員）、佐賀県開発審査会委員等、現在 7 つの委員会委員として参画し、学識経験者として活動した。（教授）
- 佐賀県教育庁の令和元年度学校安全総合支援事業推進委員を務めた。（准教授）
- 佐賀県大規模小売店舗立地審議会委員、佐賀市総合計画審議会委員、など建築都市計画分野の専門家として携わった。（准教授）
- 佐賀県庁の環境影響評価審査会の委員として活動した。（講師）

- 佐賀県総合評価技術委員会委員、有明未利用熱利用促進研究会の技術顧問、SAGA健康省エネ住宅推進協議会副会長、佐賀県公害審査会委員、佐賀県東部ゴミ処理施設整備運営事業者選定委員会委員、佐世保市立学校空調設備整備事業事業者選定委員会委員長、佐賀工業高校学校評議員、の各委員として貢献した。（教授、准教授）
- 佐賀県建設工事入札審査会委員、佐賀市公共事業評価監視委員会委員（委員長）、唐津市建設工事等入札監視委員会、の各委員として貢献した。（教授）
- 佐賀県公共事業評価監視委員会の委員を引き受けた。（准教授）
- 佐賀県都市計画審議会の委員を引き受けた。（准教授）
- 佐賀市放置自転車対策協議会の委員を引き受けた。（准教授）
- 神崎市総合戦略推進委員会の委員を引き受けた。（准教授）
- 鹿島市都市計画審議会の委員・副委員長を引き受けた。（准教授）
- 鹿島市祐徳門前地区未普及解消事業者選定委員会及び民間活力イノベーション事業評価委員会の委員長および副委員長を務めた。（教授、准教授）

各種学会の委員長や委員を務めた。例えば、以下の通りである。

- 土木学会、地盤工学会の研究委員会委員長などの各種委員を務めた。（教授、准教授）
- 土木学会の依頼に基づき、調査団長として令和元年8月佐賀豪雨災害調査団中間報告会を主催した。（教授）
- 九州橋梁・構造工学研究会、KABSE 論文集委員会委員長として、論文集の発行に中心的役割をはたした。（教授）
- 国土交通省、佐賀県、佐賀市、伊万里市、小城市などからの協力依頼に応じた。（教授）
- 日本建築学会九州支部常議員（「建築九州賞（作品賞）」の選考委員）を務めた。（助教）
- 日本都市計画学会九州支部の幹事を引き受けた。（准教授）
- 日本ヒートアイランド学会の理事として、学会運営に関わった。（准教授）
- 日本建築学会において、農村計画委員会委員、同集落復興小委員会委員等、アジア農村フォーラムWG主査、九州支部委員等として社会貢献活動に取り組んだ。（准教授）
- 日本水環境学会九州沖縄支部理事として活動した。（教授）
- 土木のイメージアップ連絡協議会の委員長および幹事長として活動した。（准教授）
- 低平地研究会の運営委員長、幹事長、部会長、編集委員として活動し、低平地技術の研究推進と情報発信を行い地域へ貢献した。（教授、准教授、講師）
- 低平地に関する国際活動を行うとともに、英文論文集「Lowland Technology International」の編集発行に携わった。（教授）
- 国際ジャーナル誌 Journal of Environmental Engineering and Science の編集委員

として、査読や Web 会議などを通して国際的な人的交流活動も行った。(教授)
国、自治体等の依頼により、技術相談や研究指導を実施した。例えば、以下の通りである。

- 土木学会の令和元年 8 月佐賀豪雨災害調査団を組織し、昨年 8 月の佐賀での水害の原因究明と今後の対策に向けて調査研究を実施した。(教授、准教授)
- 国・県の各種委員を務め、貢献した。佐賀県初地盤改良工法開発団体「GI コラム研究会」における技術環境アドバイザーとして、技術指導した。(教授)
- 国(国土交通省)や佐賀県からの依頼を受け、低平地・佐賀平野における治水対策についての助言を行った。(教授、准教授)
- 佐賀大学 TLO を通じた技術移転に協力し、登録特許について実施料収入を得た。(教授)

各種講演会での講師を引き受けた。例えば、以下の通りである。

- 「令和元年(2019 年)度 嘉瀬川交流塾」の講師を務めた。(准教授)
- 国際会議 ICBEED2019(京都)で、キーノートスピーチを行った。(教授)
- スーパーサイエンスハイスクール、ジョイントセミナーの講師として高等学校で演習および講演をした。(教授、准教授、講師)
- 国土交通省、佐賀県、佐賀市、南島原市などからの協力依頼に応じ、防災・減災に関わる招待講演の講師を務めた。(教授)
- 佐賀県土づくりコンサルタント協会の依頼を受け、有限要素数値解析講座(塾)に講師を務めた。(教授)
- 地盤工学に関する講習会を行うとともに、佐賀県の技術士会や建築士会の研修会で講義を行った。(教授、准教授)
- NPO 日本環境土木工業会主催の講習会にて、土木技術者を対象に「有明海の環境問題」について講義した。(教授)

3.4. 組織運営の領域

【数理部門】

- 理工学部各種委員、部門内委員の担当(全教員)
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加(教授、准教授)

【情報部門】

- 学長補佐(教授)
- 全学委員の担当(教授、准教授)
- 全学委員会の委員長(教授)
- 理工学部委員会の委員長(教授)
- 理工学部各種委員の担当(全教員)
- 他部局やセンターの運営委員、併任教員(教授、准教授)
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加(全教員)

- ・ 学科独自の就学支援システムの開発、改良、運用（教授）

【化学部門】

- ・ 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- ・ 理工学部長（教授）
- ・ 全学教育機構機副構長（教授）
- ・ 工学系研究科安全委員会委員長（教授）
- ・ 教育質保証委員会委員長（教授）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授・准教授・助教）

上記のように、学部長をはじめとして各種全学委員会委員長などの要職も務めており、組織運営に大きく貢献している。

【物理学部門】

- ・ 理工学部・工学系研究科各種委員の担当（教授、准教授）
- ・ 学科内の各種委員の担当（教授、准教授）
- ・ 全学委員会の委員を担当（教授、准教授）
- ・ 2019年度以降の新教育課程の運営に関する委員会の委員（教授、准教授）
- ・ 学部入学試験出題委員（教授、准教授）

【機械工学部門】

- ・ 理工学部，理工学研究科，先進健康科学研究科の各種委員会委員を担当（全教員）
- ・ 全学委員会委員を担当（教授）
- ・ 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- ・ 学部同窓会主催のキャリアデザインセミナーなどに参加（全教員）

【電気電子工学部門】

- ・ 学長補佐（教授）
- ・ 全学教育機構高等教育開発室 教育企画委員会（准教授）
- ・ 入試改革推進室会議（准教授）
- ・ 学生支援室学習支援部門会議（准教授）
- ・ 全学委員会委員（教授、准教授）
- ・ 学部長（教授）
- ・ 副学部長（教授）
- ・ 学部長補佐（教授）
- ・ 理工学部教務委員会委員長（教授）
- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 部門関連各種委員（全教員）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【都市工学部門】

- ・ 工学系研究科各種委員の担当（全教員）

- 全学委員会委員（教授、准教授）
- 専攻内教育システム委員会（教授、准教授、助教）
- 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（准教授、助教）

基本的に、部門内教員全員は全学、学部、部門内のいずれかあるいは兼務で組織運営に関わっている。また、一部教員は学長補佐、学部長補佐、といった全学および学部の組織運営にも深く関わり、活動している。さらに、教育の要である教務関連委員の中核委員（全学共通教育委員長、次期教務委員長）としても活躍している。

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの学科の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

学科	職 種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会 貢献の領域		組織運営の領域		総合 評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理部門	教 授	3 - 5	50 - 90	3 - 4	50 - 80	3 - 4	60 - 80	3 - 5	50 - 95	3 - 4
	准教授 (含講師)	3 - 5	70 - 100	2 - 5	20 - 100	3 - 4	10 - 75	3 - 5	60 - 100	2 - 5
情報部門	教 授	4 - 5	90 - 100	3 - 5	50 - 100	4 - 5	80 - 100	5 - 5	90 - 100	3 - 5
	准教授 (含講師)	4 - 5	80 - 100	5 - 5	90 - 100	4 - 5	60 - 100	4 - 5	70 - 100	4 - 5
	助 教	3 - 4	75 - 100	2 - 5	10 - 100	3 - 5	50 - 100	3 - 5	70 - 100	2 - 5
化学部門	教 授	3 - 5	50 - 100	2 - 5	30 - 95	3 - 5	80 - 100	3 - 5	70 - 100	3 - 5
	准教授	3 - 5	60 - 95	3 - 5	60 - 100	3 - 5	40 - 100	2 - 5	60 - 100	3 - 5
	助 教	2 - 4	40 - 80	2 - 3	40 - 70	2 - 4	40 - 80	2 - 5	40 - 95	2 - 3
物理学部門	教 授	3 - 4	80 - 90	2 - 4	50 - 80	3 - 4	60 - 90	3 - 3	70 - 90	3 - 3
	准教授	3 - 7	60 - 80	0 - 4	0 - 80	0 - 4	0 - 80	0 - 4	0 - 80	1 - 3
機械工学部 門	教 授	4 - 5	80 - 100	4 - 5	80 - 100	3 - 5	80 - 100	4 - 5	80 - 100	4 - 5
	准教授 (含講師)	3 - 5	70 - 100	3 - 5	60 - 100	2 - 7	30 - 100	3 - 5	70 - 100	3 - 4
	助 教	3 - 4	70 - 100	3 - 4	50 - 90	3 - 4	70 - 100	3 - 4	70 - 100	3 - 4
電気電子工 学部門	教 授	4 - 5	80 - 122	4 - 5	70 - 115	4 - 5	80 - 157	3 - 5	60 - 100	3 - 5
	准教授 (含講師)	3 - 5	70 - 100	2 - 5	30 - 100	3 - 4	45 - 100	2 - 5	70 - 100	3 - 5
	助 教	3 - 5	70 - 100	4 - 5	80 - 100	3 - 5	50 - 100	3 - 4	70 - 80	4 - 4
都市工学部 門	教 授	4 - 5	80 - 100	4 - 5	80 - 100	3 - 5	80 - 100	3 - 5	80 - 100	3 - 5
	准教授 (含講師)	3 - 5	70 - 100	3 - 5	70 - 100	3 - 5	70 - 100	3 - 5	60 - 100	3 - 5
	助 教	3 - 3	70 - 70	3 - 3	70 - 70	3 - 3	70 - 70	4 - 4	80 - 80	3 - 3

表中、例えば、評価点(3-4)は（最小値 3-最大値 4）であったことを表す。

【数理部門】

この表から、各教員は適正な自己評価を行っていると思われる。

【情報部門】

この表から、一部の助教を除き、各教員は客観的かつ適切な目標設定、自己評価を行っていると思われる。

【化学部門】

教員各自が評価した総合評価点ならびに達成率の一覧を表 3 に示す。達成率は年度初めの目標に対する実績を示すので、達成率と評価点は必ずしも連動するものではないと考えられる。例えば、高い目標値を設定したものの達成率が 100%でなくても、その実績が十分であれば評価点は高く評価したと考えられる。教員毎の判断基準が統一されていないので容易な判断はできないものの、全体的には厳しい環境の中で高い目標を掲げ

て積極的に挑戦していく姿勢を見て取れる。

【物理学部門】

この表から、教員はおおむね適切な自己評価を行っていると思われる。

【機械工学部門】

この表から、一部の教員においてはかなり厳しい自己評価領域があるものの、全体としては各教員がそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると考えられる。

【電気電子工学部門】

この表から、各教員は概ね良好な自己評価を行っていると思われる。

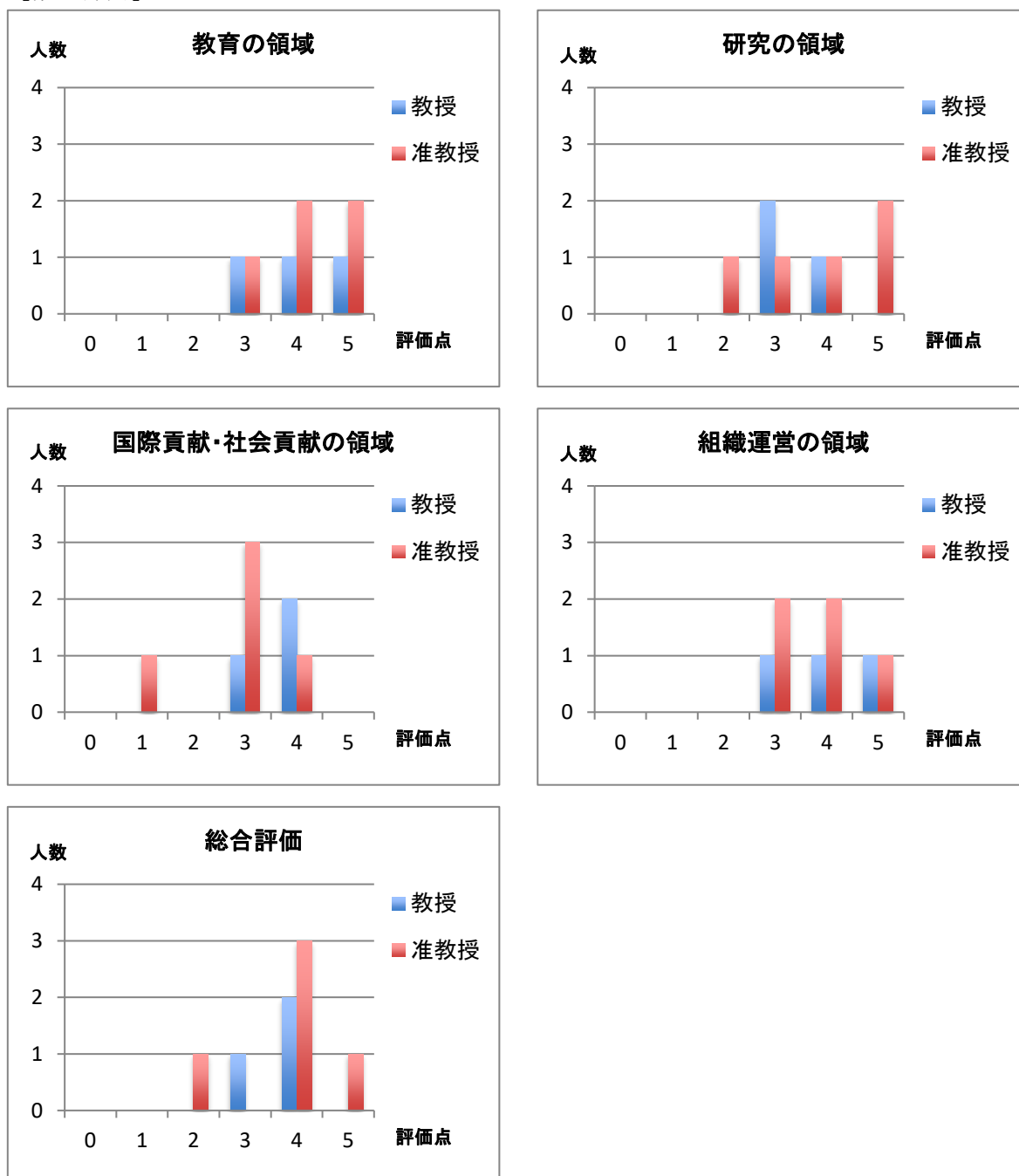
【都市工学部門】

個々人からの申告に基づくこれら自己評価について、実績とつき合わせる限り、各教員は厳格な自己評価を行っていると思われる。

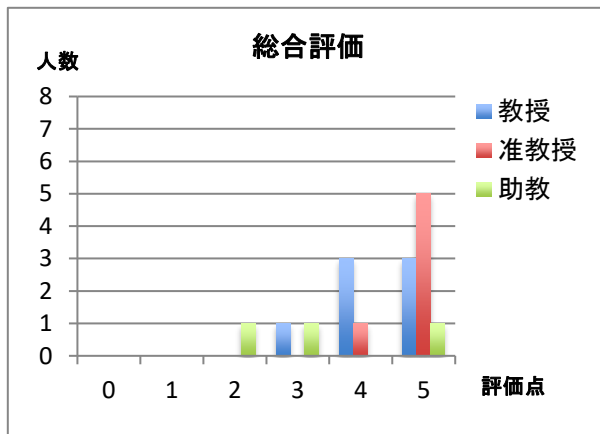
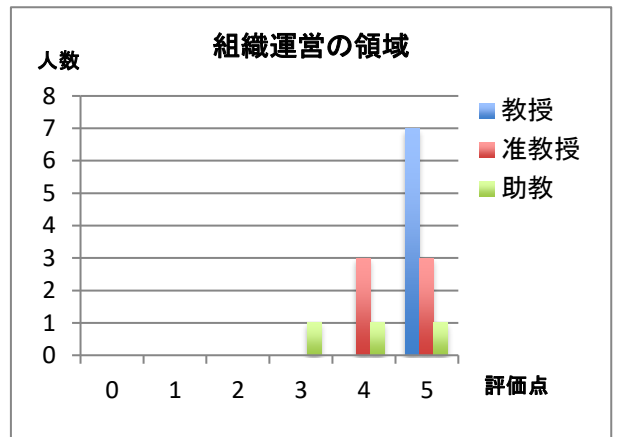
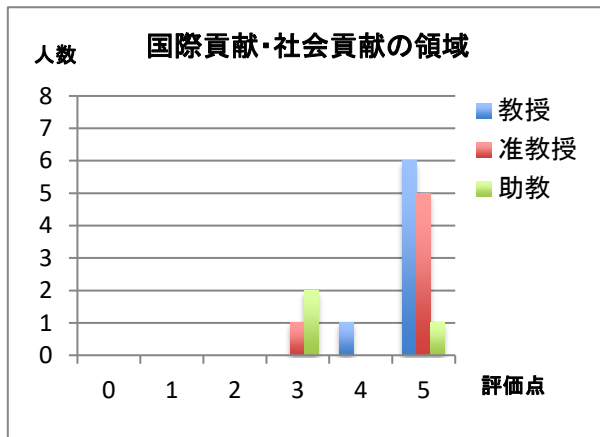
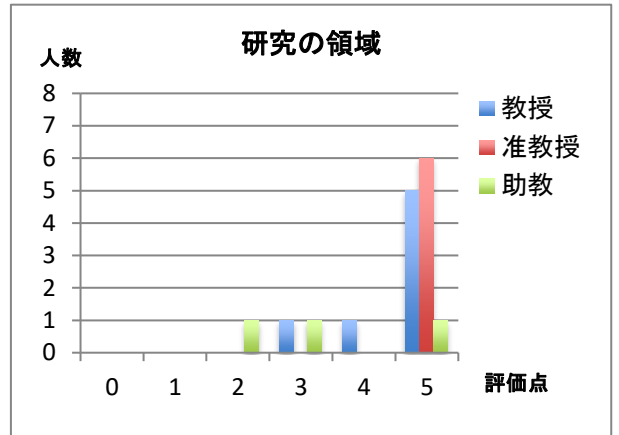
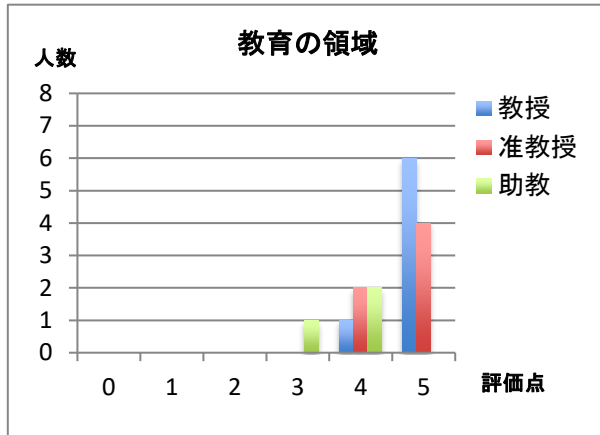
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

以下のとおり学科毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。「准教授」は准教授と講師の合計を表す。

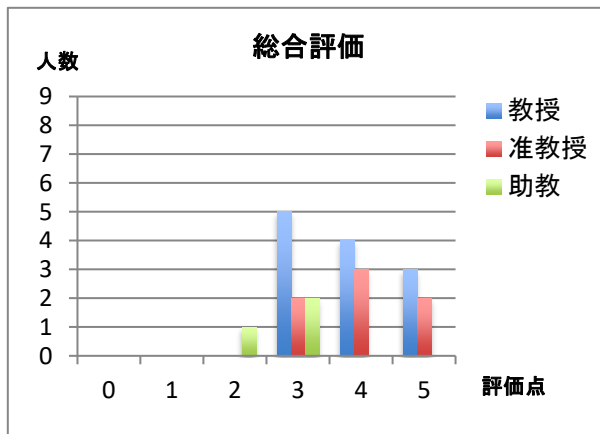
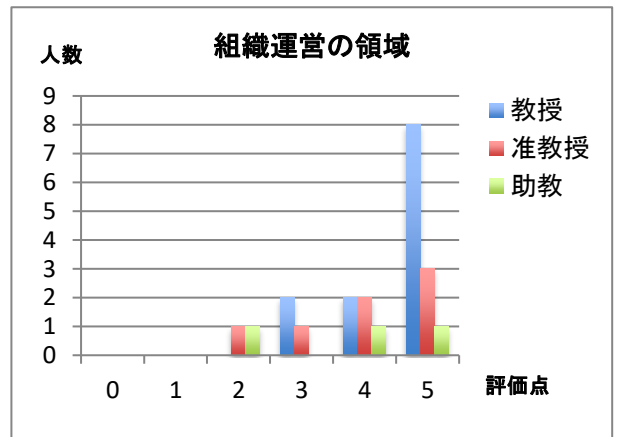
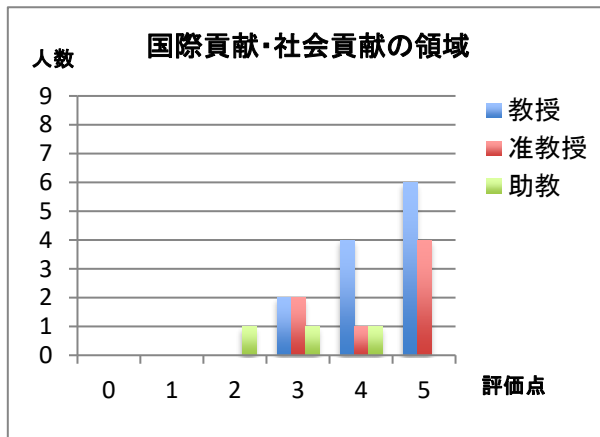
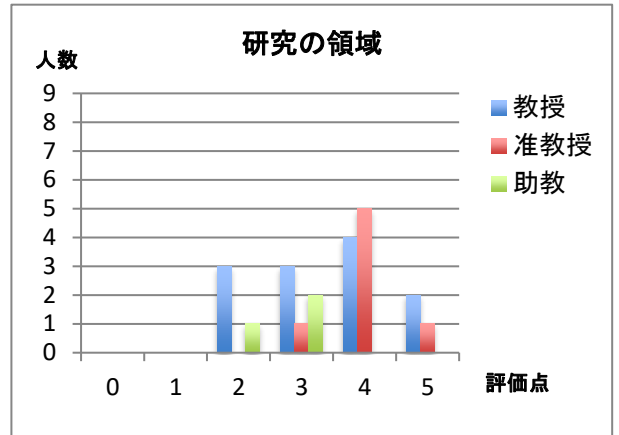
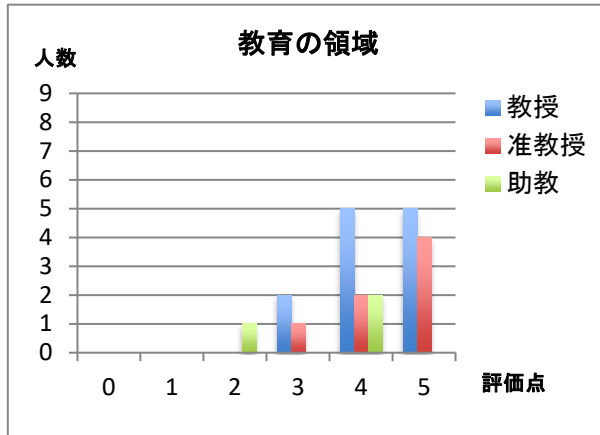
【数理部門】



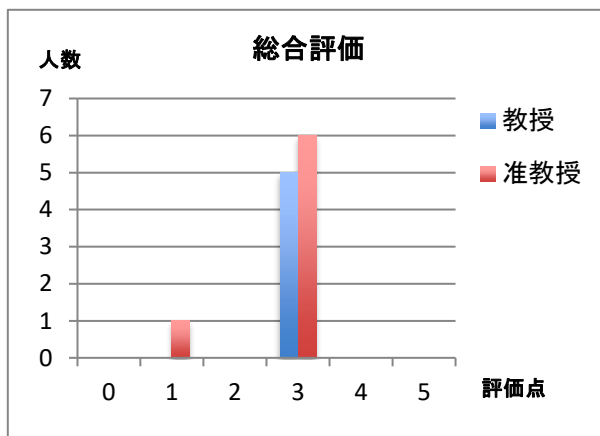
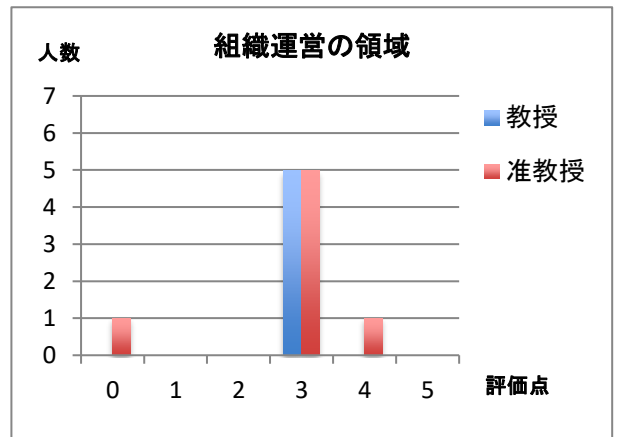
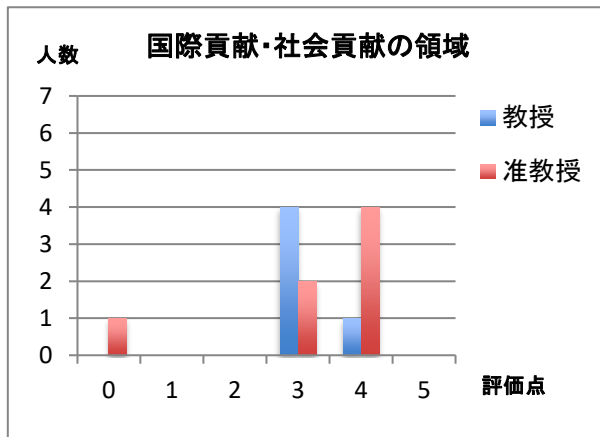
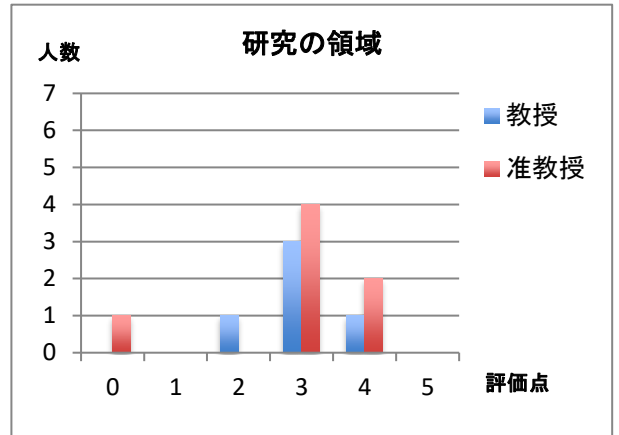
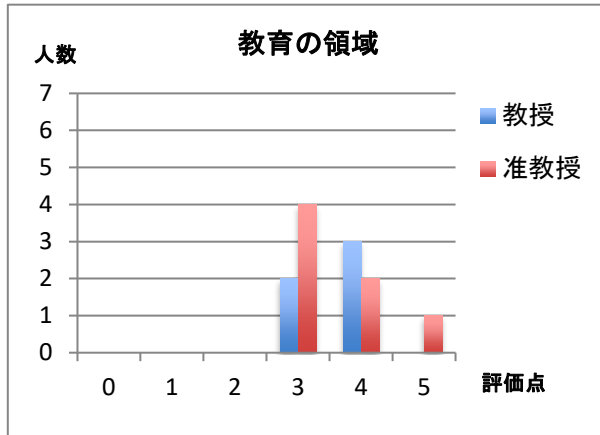
【情報部門】



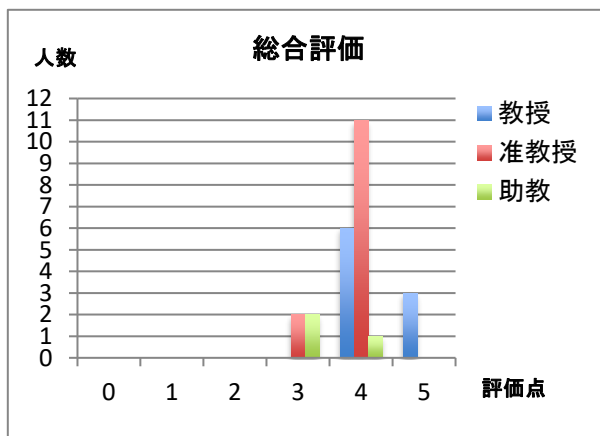
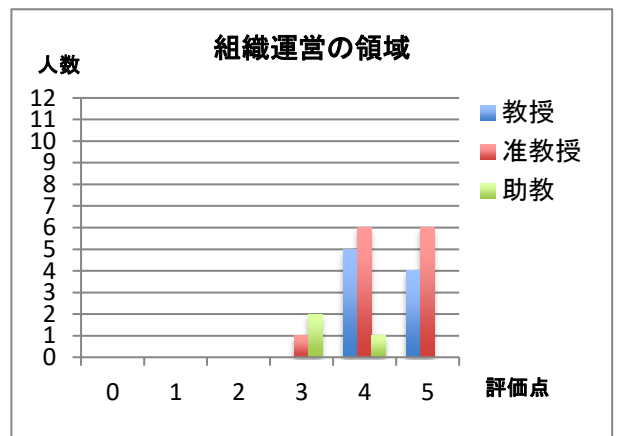
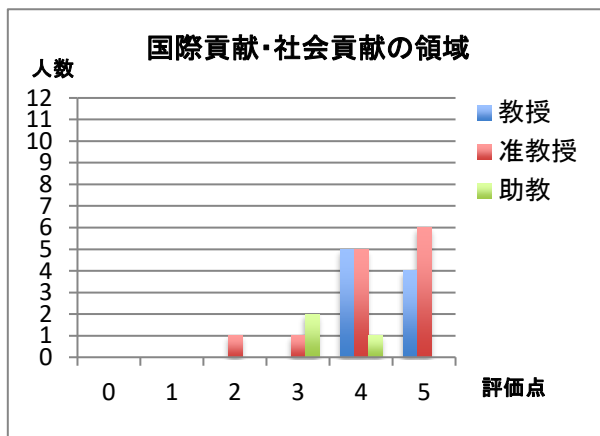
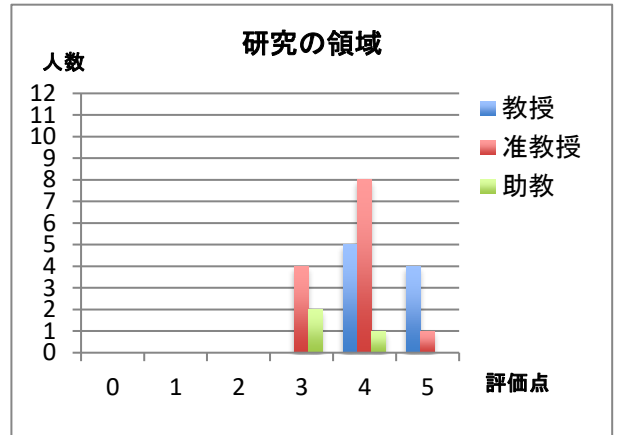
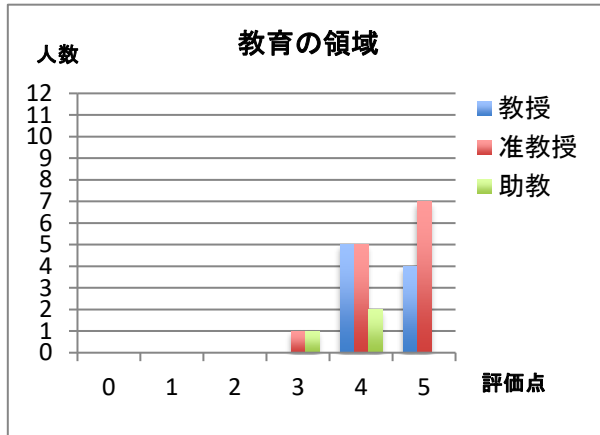
【化学部門】



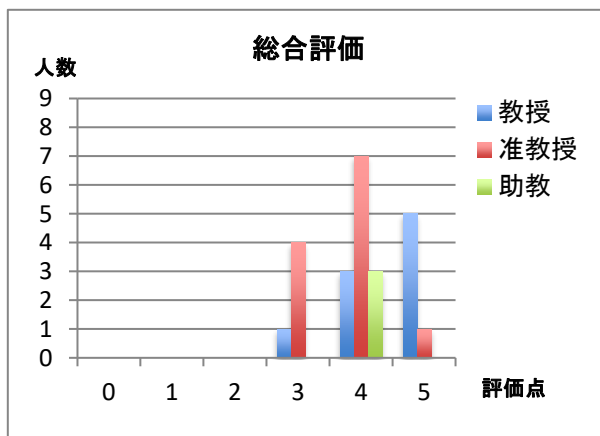
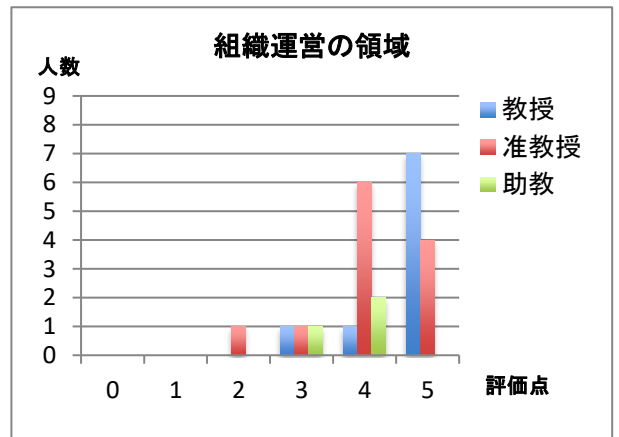
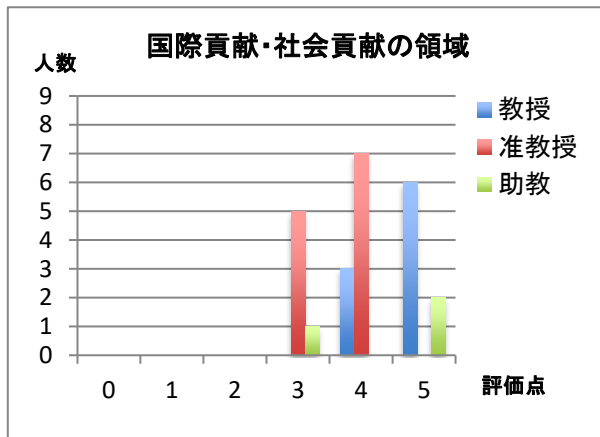
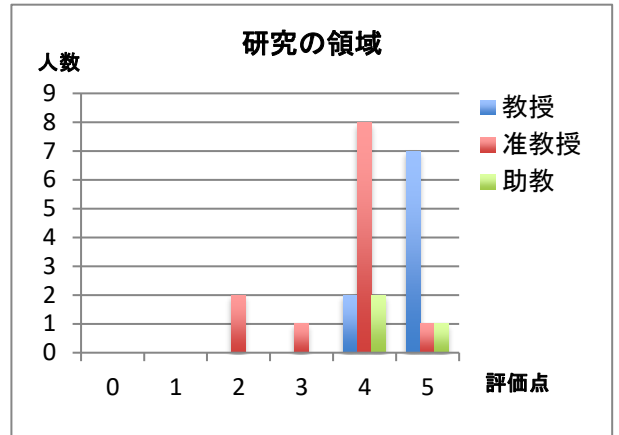
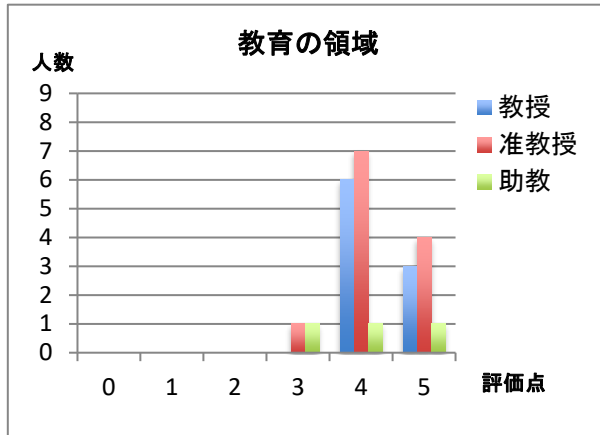
【物理学部門】



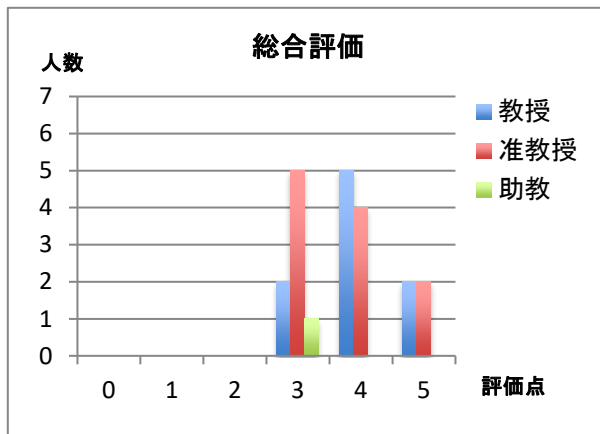
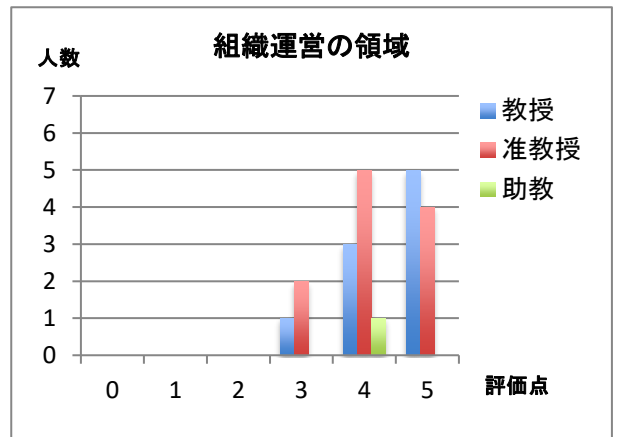
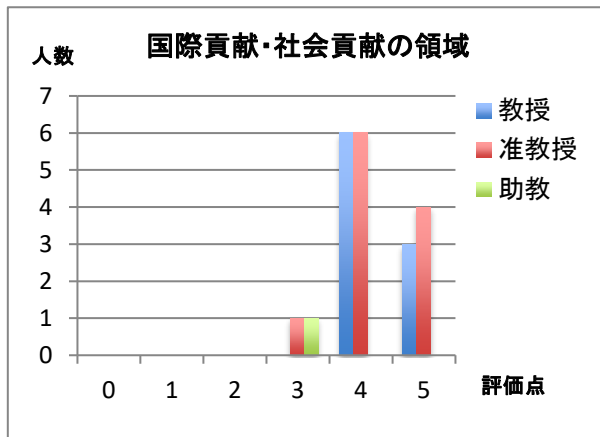
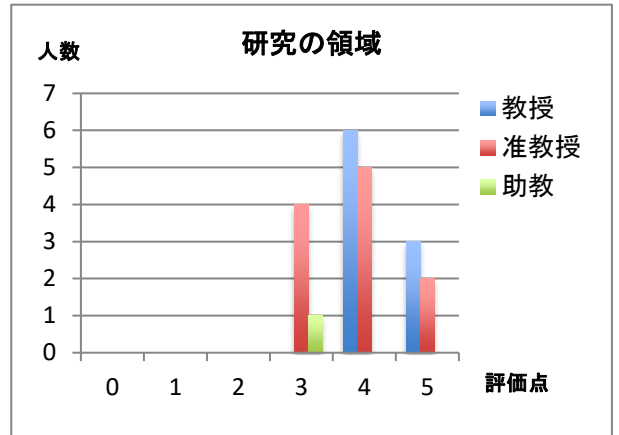
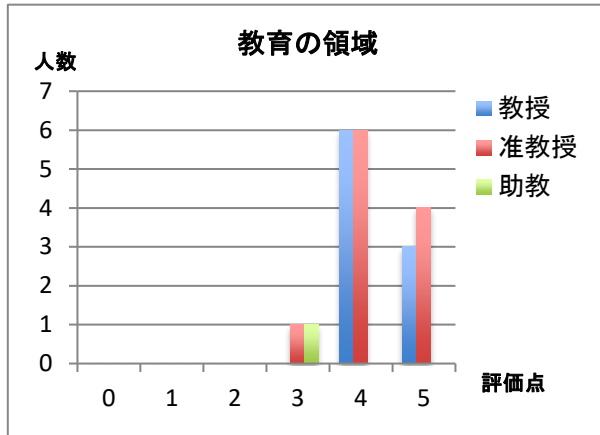
【機械工学部門】



【電気電子工学部門】



【都市工学部門】



4.3. 評価委員からのコメント

各部門の評価委員からのコメントを以下にまとめる。

【数理部門】

1. 各教員が真摯に研究及び教育活動を行い、高い科研費採択率、入試問題作成や共通教育などにおいて本学部・本研究科に貢献しているため、自己評価は妥当である。
2. 論文発表や国際研究集会への参加および講演など、研究面において質の高い貢献をしていると評価できる。
3. 教員数2名減があった直後の年度において、教育・研究・組織運営等に支障をきたさないよう何とか部門運営ができていたことだけでも、評価に値する。
4. 実際、前年度と比べると一人当たりの教育負担は増加した。当然ながら改善が必要であり、そのためには人員補充が喫緊の課題と言える。

【情報部門】

1. 教育の領域においては、ほぼ全教員が積極的に貢献しており、継続的に改善が行われている。教育負担の均等化も、おおむね改善されつつある。改組に伴う負担増へも対応しながら、今後も改善を継続していくことが求められる。
2. 研究の領域では、教授、准教授とも活発である。助教では、一名が非常に活発である。その他の助教のうち的一名にも改善の兆しが表れており、今後こうした改善が継続・拡大することが望まれる。
3. 国際貢献の領域では、留学生の受け入れや、海外の大学との連携、国際パートナーシップへの協力、国際規格への貢献など、積極的な活動を行っている。今後も、こうした海外との連携を継続・拡大していくことが望まれる。
4. 社会貢献の領域では、教授、准教授とも学協会活動のほか、佐賀県その他の各種協議会運営委員等、幅広く積極的に貢献を行っている。
5. 組織貢献の領域では、全教員が、全学委員会委員、理工学部委員会委員、他部局やセンターの運営委員、併任教員等として、組織運営に積極的に貢献している。

【化学部門】

1. 過去12年間にわたって継続されたJABEE認定プログラムの「教育の質保証」のDNAを受け継ぎ、応用化学コースと生命化学コースのいずれも質の高い教育体制を維持している。
2. 大学院教育においては、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても多くの日本人学生に加えて外国人学生に対しても指導しており、着実な教育・研究成果を上げている。学生の教育・研究指導の成果は、学会での多くの受賞などに反映されている。
3. 研究においては、ほとんどの教員が査読付きの英文誌に論文発表をしている。発表論文の中にはIF値が極めて高い雑誌への発表も含まれており、質の高い研究が行われている。学会誌から依頼された総説・解説の和文もあり、その分野で脚光を浴びる成果が上がっていると判断される。

4. 外部資金獲得においては、科研費をはじめ NEDO、JST や民間企業と共同・受託研究の申請を精力的に行い、学内研究費の削減を補う努力をしている。これは、多くの教員が民間企業をはじめ外国機関との国際研究を精力的に進めているためでもある。各教員の日々の努力が窺い知れる。
5. 国際貢献については、多くの研究者が国際学会への参加・発表を行うことはもとより、海外の研究者との研究交流も活発である。研究科の支援による国際パートナーシップ教育プログラムも2件実施している。また、海外大学での招待講演も多く佐賀大学のプレゼンス向上にも貢献している。
6. 地域貢献については、地域の研究アドバイザーとして講師を務める教員や、佐賀県や九州地区の理科教育への協力、佐賀地域の理科・科学振興のための事業への参画など、多くの教員が地域貢献に尽力している。社会貢献としては、学会の主要な委員を務める、非営利団体と連携するなどして、学会活動等にも努めている。このように、国際・地域・社会貢献にバランス良く活躍しており、優れた貢献をしていると評価できる。
7. 組織運営については、全学、研究科、専攻において本部門教員は幅広く組織運営の責務を果たして活躍している。また重責を担う役職を担う教員もあり、その貢献度は極めて高い。一方で、その重責の責務の教員を部門全体で支える態勢が出来ていることも高く評価できる。

【物理学部門】

1. 2019年度に新教育課程が始まり、新たな共通専門基礎科目の担当と旧課程との並行して授業を提供することから教育に関する負荷が大きくなっている。
2. 各教員は、日常的なFD活動を継続し教育改善に取り組んでいる。また、演習問題の出題や中間試験を実施するなどの自学自習時間を増やす取組が行われている。
3. 研究活動については、概ね良好なアクティビティを維持していると思われる。教育研究費が不足している中、学生（院生）による学会発表なども定着してきており、研究の高いアクティビティが教育の活性化にもつながっている。
4. 社会貢献や国際交流、高大連携の活動も継続されている。また分野に偏りがあるが専門性を活かして一般向け講演、サイエンスカフェなどのアウトリーチ活動にも貢献している。

【機械工学部門】

1. 教育に関して、機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構の JABEE 認定を受けており、教員の日々の創意工夫によって質の高い教育が保証・維持されている。また、個々の講義に関しては、改組によって、とくに学部共通基礎科目などで一部教員の負担が増える中、各教員が学科の目標に沿って学生を育成しようとする努力が見られる。

大学院教育では、講義での専門知識の修得に加えて、丁寧な研究指導による学生の

能力の向上が図られている。英語による教育にも力が入られ、大学院学生の国内外の学会での発表も多く行われている。

2. 研究に関して、国内外の学会などにおいて論文発表が精力的に行われている。研究費は、科学研究費補助金のみならず、企業との共同研究、奨学寄付金、財団からの研究助成などの受け入れ、NEDOなどのプロジェクト研究についても積極的かつ継続的に取り組まれている。これらのことから、部門内教員の研究に対する国の機関や民間企業等の強い期待が伺われる。
3. 社会貢献・国際交流では、学会等の役員および委員会委員などの活動を行い、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての情報交換も積極的に行っている。
4. 組織運営に当たっては、機械工学部門が担当となる研究科および学部、また部門内の様々な委員を全教員が誠実に努め、責務を果たしている。

上記 1～4 と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断する。

【電気電子工学部門】

1. 教育の領域においては、部門内の教育に関連する委員会活動が活発に行われており、教員それぞれが創意工夫して教育改善に取り組んでいる。学部教育については、准教授の負担が大きくなっている。また、卒業研究や特別研究での教育研究指導により、学会発表等において多数の学生が学会賞等を受賞している。
2. 研究活動においては、質の高い論文発表がなされ、共同研究も活発に行われている。また、研究に関する受賞も数多くなされている。教員ごとの研究活動のばらつきが大きい。
3. 国際交流においては、国際学会への参加を中心として、共同研究も実施されている。社会貢献においては、学会役員、国際学会編集委員、論文編集委員、論文査読委員、高大接続事業、地域での科学実験講師など幅広い活動が行われている。
4. 組織運営にあたっては、学長補佐、学部長、副学部長、学部長補佐、理工学部教務委員長を初めとして、全学委員、学部内委員、部門内委員ともに、着実に担当が遂行されている。
5. すべての領域において、良好な成果が出ており、教員それぞれが今後も継続的な向上に努めていただきたい。また、自己評価において、達成率が高い領域においては、より高い目標を設定し、達成率が低い領域においては、達成できるように努力していただきたい。

【都市工学部門】

1. 教育について
 - 教授の教育負担で見ると、学部の担当科目数は増加したものの、担当コマ数は平成30年度と比べ、やや軽減した。新カリキュラムおよび教員減への対応で科目数

はやや増加する一方で、科目改編と担当の平準化、非常勤講師の採用等が反映されたものとする。

- 准教授（講師含む）の教育負担で見ると、学部の担当科目数およびコマ数ともに平成30年度と比べ、やや軽減した。教授同様、新カリキュラムへの移行に伴う担当の平準化、非常勤講師の採用等が反映されたものとする。一方で、大学院での担当数・コマ数ともに増加に転じており、学部教育から大学院教育への重点化にともなう若手教員への影響が現れたものといえる。ただし、その負荷割合は教授のほうが大きい。
- 卒研学生指導数は、教授・准教授ともに、平成30年度に比較して、やや増加している。明らかに、教員減とその不補充による影響といえる。一方で、学生の希望する研究分野に若干の温度差も見られる。一概にはいえないが、学科全体の発展を踏まえると、人気のある分野に偏らない優秀な学生を社会に輩出する必要もあり、不人気な研究分野においては、学生へのアピールとともに教育カリキュラムの見直しを含めた検討の着手が必要なのかもしれない。
- 修士指導学生数は、教授よりも准教授への割合が平成30年度に比べやや多くなった。建築・都市計画系志望の修士学生が多数いるものの、対象分野の教員の多くが准教授であった結果といえる。なお、基盤・建築ともにバランスのよい、修士学生の確保は、今後の部門内の研究教育を進める上でも重要といえる。また、継続的に修士入学者確保のための学生指導およびその広報活動を行う必要がある。さらに、2020年度の卒研配属数の均等配置の取り組みが今後進学等にどう影響するか注視する必要があるだろう。
- 学生の授業評価を踏まえ、学生に分かりやすくする様々な授業の工夫が実践されており、総体的に授業方法の改善が図られていると考える。
- 理工学部の組織改組1年目にあたり、共通教育等の新たな教育システムが実施され、教員の手探りも含めた努力と改善に向け、検討を行っている。
- 多くの教員から、2019年度末の新型コロナウイルスの影響に伴い、新年度に向けた教育準備や研究活動にかなりの影響が報告されていた。

2. 研究について

- 研究に関する個人目標の達成度は、教授で92%、准教授（講師含む）で82%、助教で70%の達成率で、全平均では81%であり、総じて良好と評価される。一方で、研究の一評価軸としての論文数は、前年同様、教員個人間でばらつきが大きい。
- 研究分野の事情も背景にあると考えられるが、研究活動の落ち込みを極力少なくし、専攻全体の研究活動を一層高めるため、教員自身の自覚と努力のほか、教育システムの改善等も望まれる。
- 共同研究では、国・県の自治体のほか、民間企業との間で研究費の獲得も含め、

多種多様な形で取り込んでいる様子が伺える。

- 大学からの研究費が殆ど期待できない中、各自の研究を進めるための研究費獲得では、全ての教員が科研費をはじめ、各種財団等への申請・獲得に向けた活動を実施しており、研究活動への自助努力が窺い知れる。一方で、大型予算獲得には個人研究では対応が困難となりつつあり、学内外の研究者との共同研究を進めるなどの努力が必要ともいえる。
- 近年の自然災害に対する防災・減災の地域ニーズを推し量り、学内の研究拠点化を念頭に部門として概算要求に向けた取り組み、あるいは旧低平地沿岸海域研究センターに代わる新たなセンター設置を目指したヒト・カネ・モノの獲得と将来的な展開について、2019年度末から部門内教授を中心に検討を進めている。
- 2020年2月下旬以降、新型コロナウイルスによる各種学会の開催中止が相次ぎ、学生による研究成果の発表の場が制限され、学生受賞件数に影響を与えた可能性は残念ながら否定できない。

3. 地域・国際貢献について

- 多くの教員が行政などの各種委員会や審査会、講演会などを介して地域社会に貢献している。
- 多くの教員が工学系研究科の取り組む国際的な活動に積極的に関わるともに、外国から研究員、大学院生（留学生）の受け入れ、SPACE-E学生、海外大学での講義、及び国際的共同研究の実施により、国際学術交流を行っている。
- 多くの教員が地域の要望に応じ、技術相談や技術移転に協力するとともに、共同研究に向けた取り組みを常に意識している。
- 地域活動を主体に多くの教員が関わる一方で、国際的な活動ではやや一部の教員に偏る傾向も見られた。なお、国際交流を推進する教員の多くが、2月下旬以降の新型コロナウイルス感染拡大影響により、当初の計画をやむなく中止したとの報告が多数あり、本来の活動より少なくなったと思われる。

令和元年度理工学部評価委員会委員

委員長	豊田 一彦	(学部長)
委員	後藤 聡	(副学部長・評議員)
委員	佐藤 和也	(副学部長)
委員	皆本 晃弥	(副学部長)
委員	田中 徹	(教務委員会委員長)
委員	山田 泰教	(教育質保証委員会委員長)
委員	半田 賢司	(数理部門長)
委員	船久保 公一	(物理学部門長)
委員	岡崎 泰久	(情報部門長)
委員	富永 昌人	(化学部門長)
委員	服部 信祐	(機械工学部門長)
委員	後藤 聡	(電気電子工学部門)
委員	山西 博幸	(都市工学部門)
委員	横尾 寿人	(理工学部事務長)